

「丹後地域における府立高校の今後の在り方」に係る懇談会（概要）

開催日	時間	会場	参加者
平成28年9月17日(土)	10:00～11:30	伊根町コミュニティセンター	16名
	15:00～16:30	知遊館（与謝野町）	35名
平成28年9月21日(水)	19:30～21:00	アグリセンター大宮（京丹後市大宮町）	30名
平成28年9月22日(木) 祝日	10:30～12:00	アミティ丹後（京丹後市網野町）	19名
	15:00～16:30	みやづ歴史の館	11名
計(のべ)			111名

<番号(①～)：参加者、◆：府教委 ◇：司会進行>

【平成28年9月17日(土) 10時～11時50分 [於：伊根町コミュニティセンター]】

◇ こちらからいくつかポイントを絞ってお伺いさせていただく。資料でもお示したように、「今後、生徒数が減少していく現状」について、ご意見や何かお気づきの点、気になった点などについてご発言いただきたい。

① 改めて見ると、私立に行く生徒もいると思うので、いたしかたないと思う。

◆ 伊根町には伊根分校もあるが、地元から通っている生徒は2名であり、ほとんどが地域外に進学している。伊根町でも生徒数が減っていく状況にあるし、シート9のとおり、宮津・与謝地域では前年度比で458名から349名と大幅に減っている。この度、次年度選抜の募集定員を定めたが、全体で182名の生徒数減に対し、募集定員は141名の減とした。前年度比で宮津高校は20名減、加悦谷高校は30名減と宮津・与謝地域だけで50名減と大幅な減としている。将来推計を見ても厳しい状況である。

シート10のとおり、平成34年度選抜では与謝・丹後地域で1校平均3学級程度という状況になり、将来的には1校平均2～3学級となる。そうした課題を踏まえ、今後どうしていくかということで三つの道をお示ししているところである。

② 募集定員についてお聞きするが、教育委員会としては、1つのキャンパスで高校教育を行う上での適正な人数はどれくらいを想定しているのか。

1つの高校で適正な教育が行われると考えている規模は60名でも十分と考えているのか。何名必要だと思っているのか。

◆ 他府県でも同様だが、府の策定した計画においては、1学年4～8学級、平均すると6学級と考えている。

③ 4～8学級というと何名か。

◆ 基本的に1学級40名なので6学級で240名。ただし、ここの地域の状況を踏まえると、4学級を維持するのは難しい。最低でも3学級かと思っている。

④ 教育委員会が責任をもって良い高校生を指導するには1学年当たり90～120名は必要だということか。足りないものを今提案しているということか。

◆ 今後は90名よりもまだ減る見込みである。1学級は40名を基本としているが、次年度の募集定員については先ほど説明したとおり、例えば加悦谷高校は1学年90名の募集としている。40名ベースであれば2学級80名とすることも考えられるが、90名として3学級は維持したいと考え、ぎりぎりの選択をしたところである。

今後さらに60名、40名に減っていく中では1校だけでは機能を果たすことができない

いと考え、例えば宮津・加悦谷高校の組合せの中で、2校で連携をしながら教育機能の充実を図っていけないかということで学舎制を提案させていただいている。

- ⑤ 学舎制については後ほどお尋ねする。適正な人員がわかったので結構。
- ⑥ 子どもが少ないことはわかっている。日本中の問題であり、伊根町でも過疎に拍車がかかることになる。説明を聞いていろいろと言いたいことはたくさんある。すべてを言い切れないかもしれないが、言わせて欲しい。
宮津・与謝地域に高校が1校しかないというようなことにはしないでほしい。伊根町のような交通の便が悪いところに生まれた子どもは、通学費の面や、朝早く起きて夜遅く帰るといった時間的な面で差別を受けている状態である。今までのように高校生活が不自由なく送ることができるようにしてほしい。
また、中学生の段階で将来の職業を考えている者はわずかで、普通科に行ってから考えようという子が多いと思う。進学や就職を早い段階で考えられない。今までどおり普通科のある高校を残してほしい。加悦谷高校から普通科がなくなるのか。
- ◆ 加悦谷高校は普通科とする予定である。
- ⑦ 今までどおり普通科も置いて、いろいろなこともさせてもらえるということか。
- ◆ 普通科の中で選択することができるように、コースを設置したいと考えている。
- ⑧ 普通科もあって、選択もできるということか。今までどおりということか。
- ◆ 普通科という学科は変えないようにしたいと考えている。
- ⑨ 現在では、宮津高校普通科を落ちて加悦谷高校普通科に行くという流れがあると思うが、今までどおりそうなると思ってよいのか。
- ◆ 現在の選抜制度では、例えば宮津高校普通科を第1希望、加悦谷高校普通科を第2希望とすることができる。選抜制度としては、現在の制度を前提に考えている。
- ⑩ 普通科は2つあるということで良いか。
- ◆ そのように考えている。
- ⑪ その点は良かった。高校に行くにも、大学に行くにもお金がかかりすぎる。お金がないから子どもが学べないというようなことがないようにしてほしい。伊根町では子どもにお金をたくさんかけてくれるので大変助かっている。府も少しでも伊根町を見習ってもらおうと助かる。お金をかけて子どもたちを育ててきたので良い世の中になったというようにつながると思うのでよろしく願います。
- ⑫ 加悦谷にも普通科を残すということは、合併していれば宮津高校の普通科が増えていたはずの人員が加悦谷に行くので、伊根町の子としては宮津高校に落ちやすくなるという計算で良いか。
- ◆ 中学校3年生に対する宮津高校で受け入れている率は変わらない。
- ⑬ 宮津高校の絶対数は合併しようがしまいが変わらないのか。
- ◆ 統合すれば変わるが、中学校3年生に対しての府立高校の受け入れる割合は変わらないということである。

- ⑭ 2つの高校を一つに統合すれば、100名と60名で定員が160名になるということではないのか。
- ◆ 宮津高校だけを考えればそのとおりである。
- ⑮ 2校とも残しておくで宮津高校に落ちやすくなる、というか今までと変わらない。統合すれば受かりやすくなるということではいいか。
- ◆ 宮津高校単体だけを見ればそうなる。ただ、加悦谷高校を受けていた子も宮津高校を受けに行くことになるので。
- ⑯ 宮津高校を落ちて、加悦谷高校に受かる子だったら宮津高校にそのまま受かる。つまり加悦谷高校を残しておくメリットは伊根町にはない。宮津高校を落ちて加悦谷高校に通っていた子が合併すれば宮津高校に通学できるということになる。
- ◆ そのとおりであるが、加悦谷高校と宮津高校合わせた数の場合でも、中学生に対する府立高校の倍率に当たる部分は変わらない。
- ⑰ 府立高校としてはそうかもしれないが、そもそも加悦谷高校に行くはずだった子が宮津高校に通えるようになる。
- ◇ 統廃合する場合に宮津高校と加悦谷高校を宮津高校に統合することを前提に話をされているが、決まっていることではないのでその点をご承知おきいただきたい。
- ◆ 「宮津高校に行きたい」という思いを遂げようと思えば宮津高校だけになる方が有利である。ただ、加悦谷高校の地域の方々の思いもある。
- ⑱ 加悦谷高校の地域の方々のことを言うなら、伊根町の地域の方々は、かなり前から宮津高校に通っている。加悦谷高校が近い方々のためにそのような話をするには私は納得がいかない。加悦谷高校に通うまでの通学費を府が負担するというのならある程度納得するが。
- ⑲ 競争率が激しくなることはあるのか。
- ◆ 学校毎の競争率については動くこともあるが、丹後通学圏全体の募集定員の設定割合は大きく変えないつもりである。
- ⑳ 落ちないということで良いのか。つまり宮津高校に絶対受かるということか。
- ◆ 宮津高校に集約して募集定員を設定し、加悦谷高校がないとすれば、宮津高校には通りやすいということになる。
- ㉑ 宮津高校に落ちたという経験を子どもたちはしなくてすむ。
- ◆ この点についてはいろいろなご意見がある。それを言い出すと、丹後地域に高校は8学級、9学級規模の宮津高校1校でも良いということになる。峰山高校も網野高校も久美浜高校もいない。1校で最終的には足りる。
- ㉒ それではお金がかかる。
- ◆ 通学費はかかる。また、実際に通いにくい地域が生じる。そのため私どもとしては、今ある府立学校の多くの教育資源をできるだけ活用していきたいと考えている。平成40年頃までを見通しているが、その後も丹後地域で子どもたちが増えていくのか、も

っと減ってしまうのか。国の資料では日本国中でさらに減っていくと見込まれているが、地方創生として人口を増やそうと各自治体が行っているため増えるかもしれない。先のことはわからないが、現段階では平成40年くらいまでを見通した中で、学舎制という形で今ある学び舎を維持し、学校が小さくなるデメリットをどうなくしていくかということをご提案しようとしているところである。

②③ テーマを区切って質問事項を決めないと平等に言いたいことが言えなくなる。

◇ 改めて、高校の規模が小さくなっていくということに関して、ご発言いただいている方がおられたらお願いしたい。

②④ 京都府の場合、1クラス当たりの適正人数は40名なのか。3学級にするために90名にしたということはあるかもしれないが、1学級は40名という規模が適正なのか。

◆ 1学級40人が適正かということについては議論があるかもしれないが、規定上は1学級40人がベースである。それに伴って教員定数も決まる。ただし、次年度の募集定員を定める上で、丹後地域の生徒数の減少幅からすると一気に40人単位で減らすと学校の機能維持というか、教育活動を行う上で困難が生じるため、90人で3学級としたところである。40人が1学級というベースからすると、教員定数については工夫をしなければならないという状況である。

加えて、シート9に宮津高校と加悦谷高校のある市町毎の生徒数を示している。宮津・伊根・岩滝の小計と加悦・野田川の小計を見ていただくと、若干減り幅に差はあるが、基本的には同じペースで減っていく。この生徒数の比率から見ても、一方に集約するといった対応は難しいと思っている。また、旧岩滝町を与謝野町として合計すれば、与謝野町と宮津市・伊根町には大きな差はないということになる。

そうしたことも踏まえて提案をしているところである。

◇ 続いて、「学舎制」についてご質問などがあればお願いしたい。

②⑤ 結局、宮津高校があって、加悦谷キャンパスがあり、網野高校があってそのキャンパスがあり、定時制が1つになるという理解で良いか。

◆ そのとおりである。

②⑥ 学舎制のシステムは、宮津の公聴会で説明を聞いたのでよくわかっているが、受検については、学科を選んで受検をすることになるのか。具体的に言えば、例えば、宮津高校の宮津学舎にある普通科を第1希望にして、第2希望を加悦谷学舎にある学科を希望するという形での受検になるのか。

◆ 現在の選抜制度を申し上げると、例えば峰山高校には普通科があり、産業工学科がある。第1希望を峰山高校の普通科にして第2希望を産業工学科にすることは可能である。学舎となった場合は、普通科と普通科であったとしても、基本的に教育内容で若干違いを出したいと考えているので、第1希望が宮津学舎、第2希望が加悦谷学舎ということはある。

②⑦ 今までは普通科を第1希望、他校の普通科を第2希望にしていたが、キャンパスであればそういうこともありということか。

◆ そのとおりである。先ほど一つの学校に集約すればというご意見もあったが、いろいろな教育内容を設置しようと思えば、1校だけでは限定される。それを2つの校地で行うことにより、もう少しバリエーションのある教育内容がこの地域で行えるというメリットも考えている。その中で子どもたちが選択していくようにしたい。

⑳ 公聴会の時にも質問があったが、他県でキャンパス制をしているところは、はっきりと普通科と専門学科に分かれている。今回は同じ普通科を宮津と加悦谷に置くという新たなやり方ですということだが、それはどうなのかなと思う。普通科の中にコースを置くとなると、普通科とは言いながら専門学科的なイメージを保護者としては受けてしまう。建築科を加悦谷に持って行くことは設備的なこともあって難しいということはおくわかるが、普通科が分かれていると、普通科を受けた者としては、キャンパスが分かれるのと、普通科として同じ学校の中にいるのとでは子どもたちが生活していく上で気持ち的に違うかなと思う。同じ校舎の中で同じ普通科ではあるが、宮津高校では今でも国公立の理系・文系と、私立学校、専門学校から就職関係でクラスが分かれている。若干進む方向が違いながらも、みんな同じ普通科であるという気持ちで過ごしていると思うが、そのあたりを子どもたちがどのように感じるのか心配である。

◆ 同じように進学を目指す普通科が宮津と加悦谷にあるということであれば、学舎制をとる意味はあまりないと思う。シート34で示しているように、宮津は「普通科教育の充実を図る」としながら「建築科についても在り方を検討する」としているが、加悦谷は「普通科教育の充実を図る」として国際、福祉、看護等の新しい教育内容を検討するというのでバリエーションは異なる。子どもの選択の幅を広げるという意味もあってこういう対応を考えている。

普通科はどこにでも進学ができて良いと思われがちであるが、子どもたちにとって非常にリスクの大きい学科でもある。高校を卒業する間際まで進路目標が持てずに、なんとなく上級の学校に進学してしまう。要するに、自分の職業選択を先延ばしして、大学を卒業する頃になって、自分はどこに行くかとはたと止まってしまう。

同じ普通科の中にも、かつては加悦谷高校にはⅢ類体育系があり、体育系の進路を意識させる上で非常に効果があった。また、かつて学校規模が大きい時には、普通科にⅡ類とⅠ類があり、さらに文理系や人文系・理数系があるなど、普通科の中でコース分けをしていた。これはそれぞれの進路に向けて、子どもたちの能力を最大限伸ばすための制度であった。

加悦谷に医療、看護、あるいは国際と書いているが、これは、実際に加悦谷高校で学ぶ子どもたちの中に、そうした進路に対して熱い視線を向けている子が多いということであり、普通科の中でそうした学びの基礎に触れていくということは、早くに進路意識を持たせる上では効果的だと思っている。

専門学科についてだが、この地域では海洋高校がある。海洋高校は、漁業や海の仕事はいろいろとある中で、地域、あるいは日本全体にとって、人材を培っている重要な学校である。全国からも子どもが集まってきている。専門学科は普通科に比べて数は少ないが、人材を供給するためにも、また、中学校段階からそういう学びをしたいという子もいるので、しっかりと整備していくことが大切だと思っている。

◇学舎制の話も出ているが、その内容に関する意見があればお願いしたい。

㉑ キャンパス化が実際に可能だと考えているのか。先ほどは4クラス程度の規模が必要であるという説明であった。宮津高校から加悦谷高校までは何分かかるのか。何km離れているのか。

◆ 約14kmで、30分ほどである。

㉒ 資料の事例を見ると14km離れているところは一切ないが、これまで全国でしていないことを試験的に導入してみようということか。

◆ 全国的にも実際はもっと離れている学校もある。

㉓ それは普通科同士か。

◆ 普通科同士で離れている学校もある。

③② ではなぜ資料で示さないのか。普通科と水産科、普通科と農業科、普通科と看護科で、しかも距離は2.5kmしか離れていない。まったく参考にならない。良いように見せかけている。できますと言われても片道30分かかるところではデメリットしか感じられない。もう一度説明してほしい。

◆ 繰り返しになるが、普通科の教育内容であっても、子どもの選択という観点で、同じ内容の普通科を設置しようとは考えていない。先ほど統合するという案もいただいたが、1校では限界があるので校地を活用することを考えている。

③③ 口頭では説明されているが、シート34からそうは読み取れない。普通科教育の充実を図ると加悦谷高校にも書いてある。

◆ 普通科において新しい内容を検討するとお示しさせてもらっている。

③④ その言葉では安心できない。

◆ 距離の離れた場所で連携を図るという点については、スクールバスを導入することで条件整備を図ろうと考えている。他地域とは異なり学校間が離れているということは紛れもない事実である。そのため、如何にして、今まで地域の中で一定の役割を果たしてきた高校、また、人材育成という観点を踏まえながら、こういう考え方を示させていただいているところである。

③⑤ 30分かけて授業を受けるためにバスで移動するのか、部活動のためだけのスクールバスなのか。バスの移動は何に重点をおいているのか。

◆ シート23・24のとおり、授業については子どもたちが移動するのではなく先生方が移動する。またコンピュータの活用も検討することになる。

スクールバスについては、部活動において、授業時間が終わってから子どもたちが平日でも移動して合同練習ができる体制を整えるための活用を考えている。遠方に通学することについては、今の制度の中でも、子どもたちが選択して地元から離れて学んでいるところであり、そのための条件整備を図るということではない。それは別の話であると理解いただきたい。

③⑥ 30分かけて、宮津高校から加悦谷高校へのバス移動は、誰が移動するのかということである。先生が時間中は移動して、生徒が移動するのは放課後のみか。

◆ そのとおりである。

③⑦ 加悦谷高校の普通科教育を充実するということがだが、シート23はできないだろう。生徒が普段の授業で30分かけて移動することは絶対できないので、それはお分かりだと思ふ。普通科だが専門的な勉強をするのか。専門学科的な普通科をつくるのか。普通科とはいえ、専門学科の、しかも職業に関わることをもっと意識させようという話だったので、宮津高校の加悦キャンパスは、看護や福祉をするよ。その分野を学ぶので、とならないと、選ぶ時も実際は第2希望になり、普通科だけど少し違うよ。専門学科的だよと。考えて選んでいくと話されたので、そういう意味では、加悦高は普通科教育を充実という感じではないなというのが印象なので、シート23はまったく当てはまらないのではないか。

例えば、こちらから1時間半かけてバスで行く。行事や移動でバスが使われるのだと思うが、現実、部活動はどうなっていくのか。野球部は宮津高校にあり、テニス部は加悦谷高校にあるので、テニス部に行きたい人は宮津高校の普通科を受けたいけれど部活動をどうしよう、ということが起こってくる。結論はどうなるか分からないが、

加悦谷高校が地元の方にとって必要だということも分かるし、残すということも分かる。それと宮津高校と一緒にしていく。宮津高校の場所に定員を一緒にするか、2つに分けるかを考えているが、どちらも残すならなぜ学舎制が必要なのか。今の資料と、普通科で分かれていく資料を出してもらいたいし、70人くらいの看護の加悦高のキャンパスにした場合、加悦高の校長先生は毎年何人キャンパスに来るだろうかと悩むと思われる。もう少し、加悦谷高校の具体的なところとそれに合う資料を出してもらいたいと思う。不勉強で申し訳ない。

- ⑳ 7月9日（の公聴会）よりも資料が具体的なので、いろいろと検討されたのだということはよく分かるが、具体的な事例は変わっていない。その時にどなたかが言われたと思うのだが、これだけ離れたところで、普通科同士でしているところがあるのならばそれを追加しなかったのか。ついこの前気がついて、資料が間に合わなかったということではないと思う。であれば、そこで行っている事例を、そこでこういうふうにしていて、距離がこれだけ離れていても、こういう有益な教育を進めているということがないと。具体的に皆さん考えてください。授業が終わって急いでバスに乗って、30分かけて部活動に行つて。自分たちが高校生だと思って考えてください。5時前に終わって、30分かけて。しかもその時間帯は通勤時間帯なので、30分で行けるかといえば絶対無理である。混むので40分くらいかかる。その後、5時20分くらいに着き、5時30分から部活動を始めて、今の宮津高校は19時に終わる。先生たちはよく働いておられると思うが、19時まで部活をするとする。こちらの方面の子は自転車で通う子もいるので、一度宮津高校に帰ってくる。片付けてなんだかんだして、19時40分くらいに宮津高校に着く。そこから帰るバスはない。自転車で帰ってくる。真っ暗の中、帰ってくる。結局、府中に着くのが20時15分くらいになる。どう思うのか。できるのか皆さんが。そのような毎日の生活できるのか。自分たちがこの高校の生活をできるのか、ということである。実際に子どもが高校を卒業し、そういう生活をしてきたので、無理だということである。
- ㉑ 部活動をして府中まで帰ってくると帰宅時間は21時である。それから夕食を食べている。それが毎日である。バスに乗り遅れたら迎えに行かないといけない。
- ㉒ 加悦からのバスは岩滝で乗り換えないといけないので、公共交通機関との連携を図ってもらわないと、今のスタイルで考えているのであれば大変である。伊根町に住んでいるので、通学の時間がかかるのは仕方がないが、府の都合でいろいろ変えられて、子どもたちの生活が劣悪になるのは許せない。より良いようにしてほしい。
- ◆ 部活動について、毎日バスで移動して合同実施するということは現実的には難しいと思う。ただ、バスがあれば、日常的には別々で練習をして、ある時には一緒にするということができる。平日は難しいかもしれないが、土日に練習する場合にバスが活躍するかもしれないし、バスを整備しておけば、公共交通機関につなぐことも可能である。様々なケースを想定して、運行を考えなければならないと思う。
- ㉓ 部活動の運営としては、野球部はこっち、テニス・サッカー部はこっちというような形ではなく、それぞれの学校で人数が少なくても設定された部活動の練習をして、合同でするときは合同でという考え方が。
- ◆ それが基本である。そのときに集まった子どもたちの住所によるが、基本的にはそれぞれの学舎で分かれて普段の練習をする。そして、土日は合同で練習したり、公式戦に出たりという形を考えている。それぞれ盛んなスポーツがあるが、現状のままであれば人数が少なくなつて出場ができなくなることが想像できるので、学舎制でつないで、一つの学校としてエントリーしていくことが大事かと。子どもたちの学校を選ぶ大きな要因としては学びがあるが、部活動も大きな要因を占める。小規模な学校が散在してしまい、どこでもきちんとした部活動ができなくなつたり、したい部活動ができないだとか、あるいは、地域から外へ部活動のため出て行くという悪循環に拍車

をかけることもあるので、やはり部活動もこの丹後地域で楽しめるような形を整えたいと思う。先ほど、どこかの学校に集めればよいのではないかという意見もあったが、それはごもっともなことだと思うが、丹後の地域性を考えた場合、子どもたちの通いやすさを考えた学び舎を置いて、学びながら部活動ができる体制をとるのがベターではないかなという考えである。

先ほど普通科の話が出ていたが、専門学科になると教育課程の中で相当の専門科目を履修しないと専門学科にならない。普通科の中のコース制や系統となれば、専門学科ほどは専門科目を入れない形になる。そういう意図で話をされたのではないかもしれないが、例えば、ある高校の普通科を受けて、落ちたからある高校の普通科に行ったということではなく、自分たちが何を学びたいのかということの小中高の連携の中でしっかり早期から考えさせ、自分に合った学校なり、コースを突き詰めていく。そのためには、例えば、宮津高校が良いとなるかもしれないし、あるいは加悦谷高校のコースが良いとなるかもしれないし、海洋高校が良いとなるかもしれない。つまり、ある高校に受からなかったからどここの高校に行くという、言葉は悪いが、劣等感を意識させるのではなく、私はこういう学びをしたい。そして大学も目指したい。普通科のコースなので普通科に入るとこの大学は不利だ、といった指導はしない。基本的には普通科なので、「君が行きたい上級の学校をイメージしましょう。そのために、国語であればこういうレベルが必要です。」その際、遠隔授業も今後はかなり活用できる時代になってくると思う。例えば、小規模になると教員が減る。国公立や私学など、大学によって指導内容は変わる。教員も様々な講座を持つが、人数が少なくなると持てない。そのため、ある程度の数が必要で、学舎制にはそれぞれの教員がいるので、担当しながら指導していくことが可能だと思う。進路指導教員も小規模では二人になってしまう可能性がある。大学、専門学校、就職、就職を開拓するために教員がいろいろな企業を回っている。かなり仕事量が増え、実質できないことになりかねない。学舎制で一つの学校として教員数を確保しながら、役割分担しながら、子どもたちのニーズに合う形で提供していきたい。このまま放っておけば、人数が少なくなると太刀打ちできなくなるので、学舎制によって子どもたちの負担も減らし、教員も行き来し、ICTも活用しながら、教育の質をキープしていきたいというのが我々の考えである。

④② 普通科の中におけるコースについては分かる。言われたことももっともで、中学校の時に先生たちが行っているキャリア教育で、そうなれば良いが、なかなかそこまで子どもたちがいけるかどうかということ、いろいろな子がいるので難しいかと思う。そういうことは置いておいて、1校の普通科でコースを分ける時に、3番目の子の時に、宮高では天橋、文橋というコースができた。天橋コース、文橋コースを1年から2年で決める時に、手を上げるかどうかということがあったが、結局人数的なものでうまくいかず、2クラスを天橋にしますということで、宮高の中でコースのクラスを、1クラスのつもりが、結局2クラスに融通を利かされた。今回の場合、医療系のコースにたくさん行きたい子がいた場合、加悦高のコースの人員を増やせるのか。

◆ 今後いろいろなことを考えないといけないと思うが、選抜方法にもよると思う。もしも選抜である程度、学校にまとまって入ってくる。今後注目されるようなコースを置いた場合に、膨らんでくる。それが学校の中で、30人なり40人であれば1クラスでいけるかもしれないが、もっと増えれば教室に入れないので、もう1つ増やすということも可能性としては出てくる。それは選抜方法にもよるので、ご意見として受け止め、検討していきたい。

④③ この間、話を聞いていると、学舎制で京都府教育委員会は進んでいくと理解すれば良いのか。何かもう完全に学舎制にしていくというように聞こえるが。

◆ 本日の懇談会の前に、7月に公聴会もさせていただいているが、その中でも私どもとしては、学舎制で進めていきたいとお話をさせていただき、現有の府立高校を学舎制という形であっても残していきたいという前提で計画を進めている。その中で、資

料でお示したような対応について考えているということである。

- ④④ シート34に宮津は「普通科の教育の充実を図る」とあるが、「建築科の在り方について検討する」という点について、やはり建築科も、現在、ボランティア関係でもたくさん地域に貢献しているし、もっともっと建築科も充実を図ってほしいと思う。今まで、宮高では電機科もなくなったし、商業科もなくなった。先ほどあったように、自分たちが何を学びたいかということを目標に高校に入る場合、こういう科がなくなっていってしまうと、「あそこに行きたいな」と考えにくくなってくるので、建築科についても充実を図る方向で進めてもらいたい。
- ④⑤ 在り方というか、考え方の資料について、こういうものを出してもらえたらということをお願いしたいのだが、シート38の一番最後に再編の場合は平成32年度から出してもらってるので、平成32年度の時の生徒数とそれに対するおおよその定員とその時の教員。2校を統合して1校にした場合の教員がおおよそこれくらい。あるいは、キャンパス制にした場合の教員の配置はこれくらいつく、ということを出してもらえるとありがたいと思う。
- 非常によく分かる話なのだが、部活動をどちらのキャンパスにも持っていくと必然的に顧問が多く必要になる。そうすると教員定数が決まってる中で、府教委なり、町なり、どこかが負担してもらって教員を配置していく必要がある。そうするとお金がかかってくるということはどう考えているのか。2校を1校にした場合とキャンパス制にした場合に、どれくらいどう違ってきて、キャンパス制の中で、実は部活動はこっちでは3つしかできません、ということが起こらないかなということ懸念する。そうすると、大学のキャンパスを選ぶような感じになってくるので、そのあたりが本当に現実的にできるのか。平成32年と示してもらっている中で、その中で高校の先生方にその時点で何人違いがあって、そういうことで講座もたくさん持てるのか、キャンパスの方が良い、ということが、遠くなくてもより良い教育というか、可能性があるのなら賛成できるのだが、もう少し資料として出してもらえるとありがたい。
- ◆ 今おっしゃっていただいたのは、効率性とか費用対効果も踏まえてということだと思うが、今回の在り方の検討については、その観点ではなく、子どもにとってどういった教育が望ましいのかということスタートラインにさせていただいている。効率性だけで物事を進めるというように考えていないのが前提である。資料をということであるが、子どもとしては教育内容は子どもにとってどのような形が望ましくて、どのような教育行政が必要なのかという教育論からスタートしており、財政効率だけでこの検討を進めようとはしていないということが前提であることをご理解いただきたい。規模は小さくなると先生方の数が減ってくるので、1校だけではいろいろな活動やクラブがまかなえなくなるということが予測されるので、2校連携した中でどう担っていくかということが前提の検討である。
- ④⑥ キャンパス制についていろいろ聞かせてもらったが、規模のメリット、通学時間に関して、私的にはメリットが感じられなかった。最初にキャンパス制、残してほしいという人がお一人いらっしゃったが、その後の議論で1つに統合してもらった方が良いというように意見が変わったし、私はキャンパス制に反対なので、今、反対意見が2人、賛成意見は今まで一例もないように思うが、推し進める考えか。賛成意見はないと思うが。
- ④⑦ まだ全然訳が分からない状態だと思う。案内の紙をもらったのも一週間そこそこ前だったような気がする。第1回目が伊根町で、保護者向けでと書いてあるが、夏休み中というか、もう少し早くもらってれば、保護者が集まって、「こういう会議があるからちょっと行ってみようか。」「話聞こうか。」という話もできたと思うが、昨日、私たちのクラスでも懇談会があって、「こういうのあるけどみんな行かへんか。」と声をかけたが、「意味が分からないから行ってもな。」という意見も多かった。もっと保護者に来てもらいたいのなら、早くにこういうものを出して、もう少し内容を入

れてもらって、もっと話を聞いてみないといけないという気持ちになるような、保護者同士で行こうかという時間がほしい。一回きりではなく、また何度かこういう機会をもってもらって、意見交換ができるようにしてほしいと思う。

- ④⑧ 7月の段階にもあったので思われるかと思うが、7月の段階では今回もらった資料もなしに、「するからおいで」のような感じだった。やはりアンケートの中に入っていた資料を見ると、親ももっと真剣に考えないと、という感じで、きっとあの時ももっと。宮津会館では少ない人数で、ほとんど教育関係者ばかりだったが、保護者は誰もいないという感じだったが、もっと保護者が多かったのではと思う。その後、野田川で行われた時には保護者がたくさん行かれたというのは、やはり加悦高がなくなるかもしれないという危機感をそれまでにいろいろなところで聞いていたから、たくさん行かれたのだと思うが、資料をもっと早くに、案内と一緒に配ってもらえたら、終わった話ではあるが、良かったかと思う。

あと、お願いだが、キャンパス化が反対かどうかということも、今、ここでは分からない。アンケートにも分からないとしか印を付けていない。メリットがあるのかどうか不安なのだが、うちには30年度に入学予定の子がいる。32年度から再編になる。30年度、31年度に普通に受検をして、うちの子であれば宮高か加悦高か、今から決めている学校があるが、そこに受かったとした場合に、32年度から統合になるのか、そのままになるのか、キャンパスになるのかは別にして、変わった場合に高校の在校生はどう変わるのかということがすごく不安だし、そのあたりの資料もほしいと思う。

- ◆ シート38を補足すると、32年度からというのは、今年度受検する今年の中3生が、29年に入学して31年には高3になる。来年度の高校選択の際には、一定高校の在り方がこうなるということを理解いただいた上で受検していただくことになる。

- ④⑨ 今の中2が高校3年の時にこうなるよ、ということを考えないといけないので資料がほしい。3年間何も変わらないということではない。3年目には加悦高とこうなるとか、統合になるということが、もう少し早くに保護者に資料をいただきたい。高校選択時に子どもにアドバイスをどうかけてやるか。3年生になったらこうなるから心得ておけよ、ということを行わないといけない。

- ◆ そのことも踏まえて、できれば中2生の段階、今年中に、こうなりますということをお示しできればと考えている。

- ⑤⑩ 急がないといけないからといって、いろいろな意見があるので焦らないようにはしてほしい。

- ◆ 当初は今月中にお示しするとしていたところだが、ご意見やアンケートも踏まえて検討するためもう少しずれるかと思っている。先日新聞には11月以降と出ていたが、(現在の中2生が)受検される前にはご理解いただきたいと思っている。

- 51 参加者だけに資料が配られているが、府教委として全保護者にこの資料を配付する予定はないのか。

- ◆ ホームページに載せる予定はしているが、配付までは考えていない。

- 52 ホームページから印刷して学校で全保護者に配るということはできますね。

- 53 定時制について全く話が触れられていないので1点だけお聞きしたい。現在は伊根町から2人だけということで、少ないと言えば少ないが、経済的な事情や家庭の事情で定時制高校を選びたいという方はいると思う。弥栄分校の校地に集約されると、下宿するか保護者が連れて行くしかなくなる。定時制高校という選択肢が伊根町民にはなくなるということになる。その点についてはどう考えているのか。

- ◆ 通学については遠距離になるので、先ほど公共交通機関の話も出ていたが、そのあたりの条件整備等も含めて十分調整を図っていきたい。

伊根分校では、なかなか大きい集団で学びにくい子どもが学んでおり、また、経済的な状況などもあると思う。例えば、宮津高校と加悦谷高校をキャンパス化した場合、分校での学びのシステムを何らかの形で導入するということを検討してもよいかと考えている。ただし、現実にはどの程度の人数かということもあるので、ニーズも踏まえながらの検討にはなる。

- 54 学舎制については賛否両論あり、私なりにまとめると、宮津高校に行った場合は子どもたちは朝6時もしくは6時半のバスに乗って家を出て、部活動をすれば帰ってくるのは9時になる。公共交通機関の調整もなかなか難しい面がある。今は200円の路線バスがあるが、我々が通っていた頃は1学期10万円のバスの定期代、年間の交通費だけで30万円かかっていた。我々の頃は寮もあったので、伊根町民としてはそうしたことも検討してもらいたい。

◇ ご意見をいただきやすいようにこちらからいくつかポイントを絞ってお伺いさせていただく。まず、シート2や8でもお示ししたように、今後生徒数が減少していく。例えば、平成元年頃であれば1学年10クラスあった規模が、現在では3クラスから6クラス程度。それが、シート10にもあったようにさらに減り、多いところでも3クラス、少なれば2クラスになっていくということも説明させていただいたが、このような現状について、ご意見なり、何かお気づきの点や気になった点はあるか。何でも構わないので、気軽にご発言いただければと思う。

① まず、生徒が減っていくということはよくわかった。ただ、来年度の募集定員がすでに発表されているが、丹後全体で△141名と新聞発表された。宮津の公聴会に参加して、40人縛りではなく、普通科をあまり減らさないでくれと要望したのだが、141のうち120が普通科で減らされているということで、割合からいうと非常に普通科の減少率が高いと思う。先ほどの説明の中でも普通科の希望者が多いとあったが、その割には普通科の減らし方が大きいのではないかと思う。また学校別に見ると、峰山が△40、宮津が△20、網野と加悦谷が△30と、入学する学校によってクラスの人数が変わってくるという現象が起こってくるが、それが高校選びの時に、40人学級の学校に行くのか、30人学級の学校に行くのか、入る学校によってそのような差別をしてよいのか。まんべんなく35人学級が実現するようにした方が良かったのではないか。どのように考えてこのような定員にしたのか。

◆ 中3生が受検対象となるこの春の募集定員の話だが、紹介があったように、丹後と与謝の通学圏全体で182名の中3生が昨年比べて減少している状況にある。募集定員としては141名減らした。中3生が減ったので募集定員も減らした。高校入試ということでもあるので、中3生に比べて募集人数が多いと適正な選抜にならないので、受検ということを考え、また、私立との関係も含めて募集定員を策定している。基本的に募集定員の考え方は1クラス40名である。あくまでも1クラス40名を基準に先生の数も決まっている。もしも増やす、減らすとなれば、40名単位で増やす、減らす为原则である。ただ今回の募集定員は、普通科に配慮していないのではないかという指摘もあったが、それぞれの学校の運営体制。子どもに対しての教育を行っていただく上で、生徒の人数にも配慮して、例えば、加悦谷高校であれば40名減らすところを30名減らして90名という募集定員にしている。120名が現状だが、40名減らすと80名になり、学級数でいえば2学級になってしまうため、90名にとどめて3クラスが維持できるよう策定した。難しい話になるが、国の基準からすると40人が1クラスなので、それに基づいて先生方の数も決まるため、40人単位でない部分は府の単独の措置を行っていかなければならない。宮津高校も減らすのであれば40名単位だが、20名の減で押さえている。与謝地域には海洋高校もあるが、この地域からは全体の100人に対して31人。30人を超える子どもたちが海洋高校に通っているということもあるので、海洋高校自体、募集は府内一円。場合によっては他府県からも来ているので、他の高校とは状況は違うが、子どもの数が減るということに配慮して5人減で対応している。

なぜ普通科ばかりなのかということだが、専門学科で言うと、宮津高校の建築科は30人、弥栄分校は家政と農業のくくりで40人募集。峰山高校の産業工学科は機械とデザインの系統を設置しており、機械が30人、デザインが10人であったが、今回は10人のデザイン系統を募集停止した。職業系の専門学科については海洋高校とデザインで対応したところである。専門学科を減らすと学科自体の在り方に大きく影響する。例えば、宮津高校の建築科を20人にする、15人にするということになると、施設設備のこともあつし、専門の先生もいるので、子どもの数をどんと減らしてしまうと学科の在り方に影響するため、今回は普通科が多く占めている。ただし、40人単位で減らすのではなく、一定配慮した形で対応したという状況である。

◇ 募集定員の話があったが、最初に言ったように、この地域の生徒数が減っていくということに対して他に感想なり、お気づきの点はあるか。

② 小学校と中学校と高校の子どもがいる。子どもが減って学校が維持しにくくなるということにすごく違和感を感じる。小学校、中学校を通して子どもの様子を見てみると、1クラス10数人、全体で120人とか、そうした学校規模の方が落ち着いていたり、PTA活動もうまくいったりしている。いろいろなハンディのある子も増えてきていると思う中で、子どもが減ることが教育環境を変えるチャンスだとも思える。先生が配置がしにくいとか、そこまで話して良いかわからないが、後に出てくることだが、教科について先生が臨時になってしまう。それは、来年度の定員で府独自の配慮がされたのと同様に、府独自の裁量で何とか良い方に変えていただける部分ではないか。キャンパス化ということでバスを出すといった負担と、府の予算で先生をしっかりと配置するということと、どちらがどうなのかと思ったりする。

また、部活動がしにくいということであれば、部活動だけ2校間の合体の部活動をすれば良いのではないか。それ以外のことを考えると小規模の学級、2、3学級40人という少人数の高校の在り方をこの地域は目指すということが良いのではないか。親と子どもの立場から見ればということである。

◆ 教育内容については、後ほど部活動や学びをどう進めていくかというところと関わってくるので、そちらでご説明をさせていただきたいと思うが、高等学校という子どもたちの年齢を考えた時、小学校や中学校と同じような丁寧な手厚い指導ももちろん必要であろうかと思うが、やがて社会に飛び立っていく子どもたちに一定の人数の中で社会性をはぐくみながら大人に近づけていくことは必要である。予算議論でお金がないから先生が配置できないということは言いたくないが、例えば、シート9を見ていただければお解りのように、平成28年度選抜から平成36年度選抜まで、各旧町内の生徒数が激減している。やはり限界もある。その中で子どもたちにとって一番よい方策を考えていきたいと思っている。交通手段の問題も出ていたが、それについても配慮していきたいと考えている。

◇ 学舎制について、何かご意見や質問等あればお願いしたい。

◆ 先ほど学びや部活動について質問が出ていたので、説明させていただく。関連するシートとしては13、23をご覧ください。

まずシート13では、1学年3学級がキープできた場合の例をあげている。右側には1学年が2学級となった場合の教員定数の例である。この場合でも、かなり教員の数が変わってくる。子どもたちをサポートするのは教員なので、教員数は大きく影響する。資料にあるように、コース分けであったり、少人数に分けて授業なり、講座を展開しようと思うと、+αの教員が必要になるので、その教員数が不足してくるということが、まず前提として生じる。

例えば、シート23であるが、学舎制にも関わってくるが、これについては説明する機会があるかもしれないが、教員が移動することによって、サポートがしやすくなる。例えば、A学舎、B学舎と書いてあるところを、高校と置き換えてもらえば良いと思う。これまでであれば、A高校はA高校にいる教員でA高校の生徒をみるということになる。B高校であればB高校の教員がみるということになる。そのため、それぞれの教員が減ると対応できにくいということになる。理科の教員が2名いたとしても、その専門が物理、化学、生物であったりと、必ずしもすべての理科の専門性の高い教員が配置できるとは限らない。ところが、これを学舎という形にして、1つの高等学校にくくれば、例えば、それぞれに理科の教員が2名ないし、3名ずついたとすると、それぞれに物理、化学、生物、地学の専門性をもった教員がいれば、教員が学舎を移動することによって、子どもたちの進路に応じた補習なり、授業が展開できるということである。

高等学校では、大学に進むにしても、専門学校に進むにしても、文系や理系など、いろいろと学びが違うので、教員の多様な布陣をひくためには、学舎制にしてスタッフを増やすということがベターではないかと考えているところである。

部活動についても同じようなことが言えると思う。例えば、集団スポーツで野球やサッカー等であれば規定の人数が必要である。A高校、B高校単独では選手の数が少

ない。あるいは、吹奏楽でも部員の数が少なくなれば大きい組曲ができなくなる。少人数でエントリーせざるを得なくなり、公式戦に出場することすらできなくなる。子どもたちの学校選びの基本は学びだが、部活動も非常に大きな要員を占めている。例えば、生徒数が減っていくと、丹後地域ではどこの学校でも野球やサッカーができない。人数が集まらないかもしれない。そうすると、その部活動によって、極端に言えば、丹後地域から他地域を目指そうかなという悪循環もでてくるかもしれない。我々は地元の子どもたちは地元で育ててほしいと思っているし、活躍してほしいと思っている。そのため、学舎制にすることで公式戦出場、チーム結成が可能なように考えている。もちろん、練習をどうするのかということが出てくる。現存の施設、A学舎、B学舎で、平日は練習をし、土曜日、日曜日に合同で練習する。あるいは公式戦に出場するという形をとれないかと考えている。

子どもたちが質の高い、多様な学習をすること、できる限り望む部活動に参加できることを保障していくために、単独ではなかなか厳しいため、近接した高校を学舎制にしていこうということである。

- ③ 学舎制の件で、距離について聞きたいのだが、加悦谷高校と宮津高校は具体的に何キロ離れていて、スクールバスを使うとすればどれくらいの時間がかかるのか。網野高校と久美浜高校も同じく、どれくらいの距離でどれくらいの時間がかかるのか。また、細かいことだが、シート29に3つの高校がある、足すと11.1kmになると思うのだが。

◆ まず宮津高校と加悦谷高校の距離は約14kmで、通常は自動車ですら30分程度。網野高校と久美浜高校の距離は約20kmで、40分から45分程度である。なお、シート29の山口県の例だが、書き方が不十分だったかもしれないが、日置校舎と水産校舎を直線で結ぶと10.1kmということである。

- ④ 学舎制について、資料を見ると、アンケートもそうだったのだが、小規模化の課題と学舎制のメリットばかりが書かれている。小規模化の利点やメリット、学舎制のデメリットを書いてもらわないと、保護者としては選びようがないと思う。こちらの方が良いのだと完全に誘導尋問のようにアンケートでは示されていたと思うが、学舎制のデメリットを考えると、学舎間の距離もそうだし、先ほどは進路の面で良いことがあるとのことだったが、例えば2校が1校になれば、大学の指定校をそれぞれでもらえていたものが1人しかもらえなくなるというデメリットも考えられると思うし、先生が移動することによって、担任がその日はいない。毎週いないようなことが生じるとデメリットであるし、移動中の事故も心配される。そうしたデメリットも明記されないと、選ぶときに不公平になると思う。府教委がそうしたい。その方向に誘導しようとしているのかもしれないが、そのあたりが不満でもあるし、小規模化のメリットもたくさんあると思う。

確かに部活動では野球やサッカーはできないかもしれないが、別にサッカーや野球ができなくても、クラブ活動は他の競技で十分できる。小規模化で活力がなくなると断言されるが、峰山会場で質問した際、どこも調べていない。一般論で書いているとのことであったが、7月31日に質問してから1ヶ月以上たつ。その後調べた上で断言したのか。また、わーくばるの会場で、財政論ではないとの発言があったが、小規模化によって教員数が減ることについては財政出動すれば十分に賄える。頑張ってもらえば良いのではと思うのだがどうか。

- ◆ 小規模化についてだが、元々小規模な学校もある。北部地域にも南部地域にもあるが、そこで手厚く子どもたちを指導されてきたことについては、私どもも十分評価をしている。ただ、今私たちが問題にしているのは、6クラス、7クラス、8クラスあった時代から、今後、急激に子どもたちが減り、単独の高校で部活動すら成立しない可能性があるという段階での話をしている。

小規模な高校が活力がなく、大規模な高校の方が活力があるという一元的な比較をしているわけではない。小さい規模で頑張っていたいただいていることはよくよく評価し

ている。これまで大規模や中規模であった高校が、一気に小規模になっていく。その時の課題なり、問題性を改善したいと思っている。

例えば、生徒会活動を多くの人で行ってきた。次年度は、募集定員に工夫をして学級数をキープしたので、例えば3学級であるので、何々委員が2名ずつ出て行くとそれなりの形で確保できたわけだが、2クラスになれば委員会も人数が減っていくし、交流する子どもたちの数も減っていくわけで、そういうリスクが見え始めている。そこを問題視している。高等学校に府教委から調査はしていないが、現場の関係の方々からのご意見は聞きしているところであり、急激に人数が減って行くことに対して何とかしたいという思いである。

また、指定校については、小学校の保護者の方はあまりご存じないかもしれないが、高等学校には私立大学から、試験がある場合とない場合があるが、一定数、特別に来て良いという枠がある。ただしそれは恒常的なものではない。状況によってなくなることもある。したがって、高校では自分の力で突破できるような学力をつける指導をしている。1年生に入った時からA大学の指定校を目指していたのに、A大学の指定校がなくなったら行くところがなくなることになる。そうしたことはしない。最終的に大学を決める、専門学校を決める。様々なケースがあるが、自分の実力をしっかりつけよう、と指導をする。その際に、スタッフ、先生の専門性が必要になってくる。大学の理科の問題や数学の問題は難しい。自分の実力以上のところを目指して頑張ろう、と指導をしているし、それをしようと思うと、専門の先生の力量が必要になってくる。スタッフがなければ支援のしようがない。もちろん非常勤講師で授業を持ってもらうことはできるが、補習はできない。補習については本務者が基本的には行う。本務者がいないと微に入り、細に入りという指導が非常にしにくい。そのためには単独の小さな学校にそれぞれ先生がいるのではなく、距離は離れているが1つの学校にして、専門性の高い先生が行き来をしながら、子どもたちのサポートをできればと考えている。

それから、例えばシート24の遠隔教育については日進月歩の世界である。例えば、A学舎とB学舎で同じ講座を設定したとすれば、どちらかの学舎で授業を行い、それを時間割を合わせて同時配信することで同じ授業が受けられる。そういうことも可能な時代になっている。進学補習にしてもそういう形で対応できる。もちろん高校の教育は進学だけではない。最終的にはしっかりと仕事を持って、社会に役立つ主権者になってもらうことが目標であるので、就職はしないが家のことを手伝うとか、専門学校に進学するとか、様々な選択がある。それに対して、進路指導の先生はいろいろと手配をするのだが、例えば単独校であれば進路指導の先生が2人になるところが、学舎で合わせれば4人か5人になる。企業や大学、専門学校対応などは2人ではなかなかできないと思う。そうしたスタッフをそろえることにより、インターネットでつながっている時代でもあり、特に専門性を持って仕事をすれば、A学舎・B学舎の子どもたちの役に立つ。そういうシフトも考えたい。

- ◆ 公聴会で財政論ではないと言ったことは良く覚えている。シート13に、3学級規模と2学級規模の教員数を示しているが、例えば、芸術の先生が2人が1人になる。家庭の先生がいなくなる。芸術には音楽、美術、書道があるが、音楽と美術の専門の先生が2人いたのが音楽だけになり、美術は非常勤講師を配置することになる。財政論ではないのだから、美術の先生を京都府が雇えば良いというお気持ちよくわかるし、そのようにしたいと思う。しかし、その先生が受け持つ時間は週2時間～4時間ということになる。他の時間、その先生は何をするか。生徒指導や進路指導を担当すれば良いのかもしれないが、授業時間はその程度になる。財政論が全くないわけではないが、1人の先生の働くポジションとしてそれで良いのかということも生じてくる。そのため、授業数が少なくなれば、非常勤講師を任用するということが常道である。これは決して財政論だけではない。シート13の左右を足せば、大きな教員集団ができる。この場合は、音楽も美術も正規の先生が指導することができる。そのようにして教育の充実を図るということに眼目を置いて述べたつもりである。

⑤ 公聴会には行っていないのだが、参加した他の保護者の方から、午前中はA学舎で授業を受け、午後から生徒がB学舎に動くという話を聞いたのだが、今の説明を聞いていると、先生が動くという理解で良いのか。

◆ 資料に示しているとおりに、先生が移動し、生徒に負担をかけないこととしている。

⑥ 6年生の子どもがいる。シート23で、団体競技がしにくくなるとある中で、平日はA学舎で団体の練習をし、土日だけ合同で練習をするということは団体競技ではあり得ないと思うのだが、どうなのか。

◆ 先ほどはシート23で説明したのでわかりにくかったかもしれないが、部活動についてはシート26で、部活動については、高校同士であれば、8人+8人だが、学舎として1つの高校とすれば、〇〇高校として出場ができるということである。ただし、練習については、時間割や学校の状況によっては、平日でもバスで移動して練習することも可能かもしれないが、6時間目が終わった後となると時間もなかなか厳しいと思うので、平日はそれぞれの体育館・グラウンド等でパート練習というか、そこにいる子どもたちで練習をし、土曜日や日曜日に集まって組織的なプレーを練習するというイメージである。

⑦ バスが出るということだが、2台では足りないのではないかと。また、子どもによって授業の時間が違う場合など、例えば、平日や休日に、1日何便くらい予定しているのか。1本だけで対応するのか。

◆ 授業は先生が移動すると説明したが、部活動については毎日ということになると負担になるかもしれないので、基本的にはパートで練習をし、土・日曜日には時間も長く取れるので、合同で練習をすることになると思うが、資料では、例として、平日の6時間目が終わった後にA学舎からB学舎、B学舎からA学舎に移動して、1つのクラブはどちらかに集中しながら部活動をするということで、双方で行き来をするイメージを示している。

⑧ この4月から岩屋小学校がなくなり、市場小学校に編入したのだが、最初に感じた経験と今の経験では違うかもしれないが、いじめがあるのでなどと考えたのだが、一番の問題は盲点で通学路であった。通学の距離。家から市場小学校まで2.7kmあり、歩いている。小学校と高校では違うのだが、移動の距離に関する生徒への負担。体力的な。例えば、加悦谷高校と宮津高校で、宮津キャンパスに入ったとすれば、うちの子は野球が好きなので絶対に野球部に入ると思う。すると宮津高校で部活動が終わるのが6時30分。そして土日、練習の方法はあるとして、それから加悦谷高校に来るのが30分。そこで7時を過ぎる。そうすると帰って7時半になってなんだかんだで8時ぐらいになる。その負担たるや想像するだけできつい。先ほど説明があったように、パート練習などで本当にその高校は強くなれるのだろうかと考えると、魅力がない。子どもは、強いところに行きたい。頑張りたいと思うところに行きたいと思う。そのためなら少々の苦勞にも頑張っていける力があると思う。そう考えると、中途半端なことをして、2つだから野球部できるよということではたして行くか考えると、魅力がある学校というのは、指導力のある先生がいて、そこであれば僕はこの3年間どんなことをしても頑張る。そういうことへの考慮がないと、本当の魅力ある高校にはならない。ましてや網野高校、久美浜高校となるとさらにきつい。雪の季節もあるので、さらに練習はきついものがある。子どもたちのことを考えると、はたしてこういう学舎制、一見きれいには見えるが、ものすごく負担が時間的なものがきつい。学校自体は良いが、負担がどうかと思った。

◆ ご心配はもっともだと思う。中途半端なこととおっしゃったが、加悦谷高校と宮津高校を例にとると、思い切って一つの学校にして、加悦谷の学舎は閉じてしまうという選択肢もあると思う。そうすると、野球部も毎日同じ所で練習ができ、強くて魅力

あるものになるのかもしれない。ところが、一方で、通学距離がすごく負担になるとおっしゃった。高校生は、自転車も乗れば、交通機関にも乗れるが、2つあればそれぞれの地域の方は通いやすい。したがって、どちらを選ぶかということだと思う。近い所を選ぶ方もあれば、学びの内容を選ばれる方もあれば、クラブを選ぶ方もある。ただ、現在、両校で持っているものをなるべくキープしていこうと思うと、不徹底なことがなるべくないようにしたいと思うが、見方によっては中途半端ではないかというご意見は、重々わかった上で、学舎制を最良の形になるようにもっていったらということが、私たちの思いである。

⑨ 学校の先生や地域の方を集めて会議をされていた第3回懇話会を聞きに行ったのだが、そこで、京丹後市の校長先生方が何人か、このキャンパス間の移動について、今の方と同じような意見を出されていたということも、今、思い出した。綾部で実際に学校間の移動をされていたという校長先生が、「先生も生徒もすごく疲れて、大変だった。いっそのこと一つに統合したら良いのに。」というご意見もあった。ネットなどで調べると、全国的にはキャンパス化している所は他にもあり、北海道などでもかなり遠い距離で行われていると思うが、何年かした後に、結局統合している。やはりキャンパス化で進めているうちに、問題がいろいろ解消できないこともあるのだろうなあと、今話を聞いて思った。

⑩ うちの子は今年から高校生だが、去年、受検というものを目の当たりにした。去年は、私立高校に行く子がとても多かった。このようにキャンパス化されて、魅力ある学校をと言われるが、私立高校の良さにみんな目が行っている。なぜかというと、自分のレベルに合わせてコースを選べるわけである。府立高校はオールフラットということも聞くが、加悦谷高校に近い子が宮津高校などに行ってしまうのは、同じ国語でもすごくレベルが違う。そうすると、より良い大学に入れる宮津高校を選ぶという子がすごく多いのだと思う。それ以上に、もっと上を目指そうと思ったら、福知山までは遠いが私立に行くしかないという状況があり、国公立の良い大学を目指そうと思えば、福知山成美高校の一番上のクラスを目指すとといったことになっていると思う。

昔であれば、Ⅱ類、Ⅰ類があり、勉強したい子はⅡ類に行く。就職がしたい、専門学校に行きたいという子であればⅠ類を選ぶ。そういう選択肢があったが、今はない。そうすると、学校によって、勉強をしたいから宮津高校に行こうという感じになると思う。昔の制度にもう一度戻しながら、私立のコースを選べるということも選択肢に入れながら、魅力ある高校をつくってもらわないと、キャンパス化になっても私立に流れるのではないか。私立も、安くなってということもおかしいが、行きやすくなったので、「一万円くらいかかかって塾に行かなくていいよ」という誘い文句によって私立を選ぶ子も多い。国語でも、数学でも、もっと質の高い授業を受けたい子は、加悦キャンパスでも、宮津でも受けられる状況をつくってもらいたいと思う。

◆ 以前は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類があり、加悦谷高校にはⅢ類もあった。学校規模がある程度ある時は、類・類型ごとに希望者があり、定員が充足されたのだが、子どもが減ると、はじめから入試で分けておいても定員割れとなりうまくいかなくなってきたということもあった。そのため、類・類型制を解消し、今の形にし、子どもたちの進路希望や習熟度に合わせて、学習集団を分けている。教育課程も進路に応じて理系、文系に分けたりしている。子どもたちが入ってきたときの様々な希望、また、学ぶにつれての希望をしっかりとキャッチし、適切な教育課程をつくっていくことがどの学校においても必要だと思う。教科で優れた先生を全教科そろえることは、正直難しい。そのため、先ほど説明したような、ICTによる遠隔授業も活用して、どの学舎で学んでも、最高の進路を目指せるような授業ができるようなことを追求していきたいと思っている。

⑪ 話を聞いて何となく見えてきたというところである。最後に、いろいろな考えがあると思うのだが、最初の方が発言された、1クラス30人という定員については、そうだなあと。高校の通級指導が数年後に始まるというような話も聞く。子どもの一

人一人のニーズ。コミュニケーションに少し障害がある、あるいは、家庭的なことなどを踏まえ、より丁寧な指導がこれから必要になると思う。

私の理想は、自転車で行ける地域の普通科の学校でしっかり学べるということである。加悦谷高校なり、宮津高校なりが、キラッと光る高校になってくれるといいなあと思っている。

お金のかけ方として、例えば、定員を30人にすれば先生の確保もできるし、お金はかかるかもしれないが、地域に根ざした先生になってくれるのではないかと思う。あと、クラブの問題や遠隔授業については、それぞれの高校のままでできることかと思った。ただ、高校のクラブについては、やはり同じチームのメンバーが別々に練習ということは、ありえないなと思った。本当に自分の学校に誇りに持って、してほしいと思う。一人一人のニーズにあった教育のできる学校として色を出してもらえたらと思った。

- ⑫ 公聴会にも行ったのだが、これだけ何回も、府の方が来ていただいて、いろいろ説明いただいているのに、蓋をあけてみれば、そんなに参加者がいない。もっと大勢参加されたら良かったのと思う。大変申し訳ないのだが。

いろいろ聞かせてもらった中で、学舎制はとてもいいなどはじめは思ったのだが、いろいろなことを聞いていると、子どもの負担。クラブ活動も先ほど何度も言われていたように、やはりみんながチームで一つの学校で戦うという場合は、離れていると成り立たないのかと思うし、このまま進めて学舎制となった場合、最終的には加悦谷高校がなくなってしまうのかという不安がよぎります。うちの子どもが行くかどうかは本当にわからないのだが、今であれば団体競技をしているので、選ばないと思う。そういう人が増えてくるということは、悲しいというか、最終的にはやはりなくなってくるのかなあ、1校になってしまうのかなあと思うので、できれば、小規模でも、先生の人数的問題についてはお金ではないと言われていたし、先生も忙しくされている。美術の先生などがいて、仕事がない場合は、今、一生懸命頑張っている先生がいる。人数が少ないとできないと言うのであれば、そういう先生に動いてもらったりとか、いろいろなことができるのではないかと思った。まとまらないが、そう感じた。

学舎制は、どうなのか。これから与謝野町も人が少なくなっていくと思う、そうすると、中学校の進路指導の先生も、振り分け方が決まってくると思うので、進学したい人は宮津、専門的にいきたい人は海洋など、目的を持った方はそれぞれの学校を選んでいく。本当に、今、加悦谷高校には魅力がないので、キラッと光る何かを、他地域からも来れるような体制にしてもらえたら一番良い。人数を増やしていただけることが望みである。

- ◆ 加悦谷高校の魅力高める努力は、これからずっと続けていこうと思っている。また、クラブも、それぞれでチームが組めればそれがベストである。ただ、今年、加悦谷高校の野球部は入部した子が非常に少なかった。これから先、部として成り立つのか、非常に危機的な状況がすでに出てきている。ご発言のとおり、一つのチームで同じ所で練習するのが良いに決まっている。それはわかっているのだが、それができなくなっていく状況の中で、ベターな方法を考えているところである。それが素晴らしいとは思わないと思うが、そういう状況である。

- ◆ 加悦谷高校だが、丹後地域の今後のことを考えた時に、地域のことをしっかりわかった、そういう子どもを育てて、大人にしていかなければならないと思っている。

(府の事業において) 峰山高校はグローバルネットワーク校、宮津高校はサイエンスネットワーク校として特徴を發揮しているが、加悦谷高校は京都フロンティア校に指定をしており、地域創生に非常に力を入れている。ご老人のところへ出向いて、丹後の名産である和装を着て呈茶をしたり、お菓子を持って行ったりと、地域に根ざした取組をしている。その宣伝ができていないことは、高校教育課として申し訳ないと思っている。もっとPRしていきたいと思うが、非常に、きらりと光っている学校だと思っている。

また、部活動のパート練習についてだが、実は、ここだけではなく、いろいろなど

ここで、分業的なチームのつくり方は多い。例えば、ラグビーでA高校とB高校が7人制がない頃などは合同で頑張っているところはたくさんあった。私もバレーボール部の顧問をしていたが、合同チームで試合に出るというケースはたくさんある。合同チームを探すとなると、自校の部員が足りない。その場合、部員の足りない学校を探さなければならない。どこか足りないところないですか、一緒にしませんかと。これがないと合同チームは成り立たない。しかし、学舎制の場合には、最初からパートナーがいて、毎週一緒に練習ができる。以前の多くの生徒がいた頃とは違うので、ベストではないと思うが、現状ではベターなのではないかなと考えている。

今日、いろいろご意見をいただいたので、持ち帰って検討させていただきたいと思う。

【平成28年9月21日(水)19時30分～20時45分 [於:アグリセンター大宮]】

① 小学校の保護者だが、シート11、12に小規模のデメリットがあるが、広い視野で検討できるようメリットの記述があればよかったと思う。良いところもあると思うが、考えたのか。

◆ 小さな規模で手厚く丁寧に指導という点では、良いところもあろうかと思うが、高校で子どもたちが学ぶ上で、小規模化はマイナス面が確実に想定され、それを危惧しているところである。今のまま残しておけば、全て小さな高校になってしまう。その時、どういうことが起こるかについては、後にメリット・デメリットや学舎制の説明を詳しくさせてもらう。例えば、現在の分校でも小規模だが丁寧な指導がされており、それ自体は評価している。ただ、今まで10学級あって、行えていた活動が、急激に規模が小さくなることでできなくなってしまう。その困難をできるだけ回避するため、今回、説明させていただいているところである。

② シート24について、学舎制を導入したときにICTを使った授業をするということだが、現在、高校でそうした授業が普及しているのか分からない。子どもが高校に通っているが耳にしないので、あくまで子どもに分かる授業をすることが主眼であり、学舎制になった場合に、「ICTでやっているからいいでしょ。」と言われても保護者としては納得がいかない。今の段階でどう普及しているのかを聞きたい。

◆ まず学舎制について説明させていただく。例えばシート13を見ていただくと、1学年3学級であれば教員の定数は22名。2学級になれば15人と減っていく。生徒が減ることももちろん大きな問題だが、それに付随して教員が減ることが大きな課題と考えている。例えば、A高校は理科の先生が1、2人いる。その場合、物理の先生はいるが、化学や生物の先生はいない、ということが起こり得る。小さな高校で多様な子どもたちの進路保障がしにくくなる。また、B高校には化学の教員が1人いるとすると、やはり生物、地学、物理の教員がいなくなるので、そこでの専門的な教育はやりにくくなる。A高校、B高校を1つの高校のA学舎、B学舎という形にして、理科の教員が4人いるとすれば、それぞれある程度専門性をもった者がいるので、移動して子どもたちが学びたい科目の授業をするということが1つ考えられる。また、分掌業務というものがあるが、高校3年生が一番関わるのが進路指導部である。その部の教員が各校2人ずつの形にした場合、進路指導部では大学、専門学校、就職、公務員を含むその他について担当するが、就職担当であれば、いろいろな企業にお願いに回ったりするし、進学担当も同様である。その業務をA高校は2人でしなければならぬ。B高校も2人でしないといけない。学舎制で1つになれば、5人で分担することができる。そうすれば、教員の負担も軽くなるし、その分、生徒への指導やサービスがしやすくなる。分掌業務も授業も、現在と全く同じということではないが、教員が減ってもかなりカバーができる。

ご質問のあったICTに関しては、技術的には相当進んでいる。京都府教育委員会のみらいネットサーバーというものを利用すれば、設備があれば病院と通信して、入院中の生徒に授業をすることが可能。高等学校でも設備が整っていれば、今もテレビ会議システムなどは稼働しているので、施設をきちんと整えれば可能である。実際、普及しているかといえば、現段階ではそれほど普及はしていない。それはそうしたことをしなくても教員がいたからである。しかし、今後教員が少なくなっていく。荒い言い方をすれば、都会の方では、生徒はたくさんおり、高校もたくさんあり、交通の便も良ければ、学校を1つ整理して他でやることもできるかもしれない。しかし、丹後の地域性を考えたときに、遠方から来られるなど交通機関の事情を考えると、ICTを重要視して京都ならではの遠隔授業をしていきたいと考えている。

イメージを確かなものにしていただくため部活動の話もさせていただく。シート26においてA学舎をA高校、B学舎をB高校と解釈すれば、8人ずつしかいないので、例えば、野球やサッカーはチームが組めないことになる。実際、そういうことが色濃く想定される。そこで、〇〇高校という1つにして、学舎制によって結び、この8人

はA学舎だけでも〇〇高校の生徒である、B学舎の8人も〇〇高校の8人とすれば、足せば16人なので公式戦に単独チームでエントリーできる。もちろん毎日一緒に同じ場所で活動することが望ましいが、現実的に生徒が激減していく中で、はたして単独で部活動が維持できるか。もし野球やサッカーをしたいという希望がその学校で叶えられないなら、部活動と学びは中学生の学校選択の非常に大きなポイントを持つので、A高校にも行かない、B高校にも行かない、例えば、私学へ行く、丹後地域を出て行く、といったマイナス面が今後生まれてくる可能性がある。丹後の子どもたちが、丹後地域内で勉強と部活動を頑張ってもらうためには、この学舎制が1つの方法になってくる。毎日の練習は分かれてパート練習をしてもらうことになろうかと思う。土曜や祝日、日曜日に合同練習なり、公式戦に行くなり、あるいは長期休業中にそれぞれの学校に集まって練習するという形にならざるを得ないと思う。よく似たパターンで合同チームというのがあるが、自校の部員が少なく、他の少ないチームの高校を探してマッチングできればチームが成立するというものである。ただし、相手がどこのチームになるかは分からない。例えば山城地域、あるいは中丹地域の高校にもなりかねない。そうすれば、一緒に練習は難しいことになる。しかし、学舎制の部活動は、パートナーは入学前から決まっているので、平日はそれぞれだが土日は一緒に練習できることが約束される。合同チームの場合は、どこかが手を挙げてくれなければ試合に出られない。生徒が激減していく中でもできる限り最大の形を探していきたい。特にICTに関しては今後ますます発達していくと思うので、できることはどんどん取り入れ、京都ならではの学舎制をつくっていききたいと考えている。

- ③ 学舎制だが、事例では加悦谷と宮津が1つの学校となっている。1つの高校になったとき、通う学舎は家が加悦が近いから加悦になるとか、どうやって分けられるのか。同じ教育課程であれば場所が違うだけだが、その場所の選択はどうなるのか。

◆ シート34には、宮津高校と加悦谷高校、網野高校と久美浜高校を学舎制の組合せを挙げている。同じ学校で同じ教育内容であればどちらの校舎を選択するのかという話もあったが、我々が考えているのは、それぞれの学校の教育内容について、一定異なるものを置きたいと考えている。例えば、この京丹後地域であれば網野と久美浜があるが、網野は普通科教育の充実を図る、久美浜は総合学科であり、現在の教育内容を踏まえながらも内容について一定異なった形での学びを設けようと思っている。宮津と加悦谷についても、宮津で普通科教育の充実を図る、また加悦谷でも普通科の充実を図る、と同じことをシートに書いているが、加悦谷では国際、福祉、看護という形で内容について異なる形で置こうと思っている。学校の選択については、例えば峰山であれば同じ学校に普通科と工業科があり、宮津には普通科と建築科がある。1つの学校に普通科と職業系学科を設置しているという状況があり、今の選抜の中では第1希望を普通科にして、第2希望を同じ高校の建築科という選択もある。峰山高校の普通科を第1希望にして、宮津高校の建築科を第2希望にするといったクロスの選択もある。学舎制をとった場合、1つの高校として同じ学科となったとしても、例えば、第1希望で〇〇高校の宮津学舎にして第2希望を加悦谷学舎にする、第1希望を網野学舎にして、第2希望を久美浜学舎にするといったように、入試の段階でどちらかを選んでいただくという制度にしたいと考えている。

- ④ 小学校低学年と小学校入学前の子どもがいる。平成32年に学舎制の形をとっていききたいという説明だが、下の子が入学する10年先頃には丹後通学圏の生徒が600人台になる。その時に、学舎としてのそれぞれの学校が小規模化していないかが心配になる。小規模化によって、学舎の中に実質的に分校のような学校が生まれたり、丹後の高校は資料に例示で挙げられているところより離れており、また冬の雪という事情もある。丹後地域における通学事情を考慮するというのが基本的な考え方であるが、先生の移動や部活動の移動についても厳しいものがあるのではないかと思うし、生徒数が600人台になった時に、今の考え方で、本当に学舎が10年後、案のとおりうまくいっているのか心配である。ぜひとも短期的ではなく中長期的に丹後地域の高校の発展を考えた形で計画を進めてほしいと願う。

- ◆ ご意見にあったような心配を皆さんされていると思う。今、学舎制だと言ってもいつまでもつのか、本当のところ府教委はどう思っているのか聞いてみたい気持ちがおありではないかと思う。以前、冬に網野高校から久美浜高校まで海岸沿いを吹雪の中車で走り、ここは冬は大変なことになると実感したことがある。先生方といえども、週の何日かはこっちの学舎で何日かはあっちの学舎という通勤自体もかなり困難だということも分かる。バスを走らせて合同で部活動をするということでは、夏はまだ日が長いからできるが冬は厳しいと思っている。

ただ、地域全体での生徒数600人というのは、高校の規模で言えば2校に足りないくらい。丹後地域でわずか高校が2校しかない状況は、本当に通学上厳しい状況が生まれることになる。また、地域の活性化等、これからの地方創生の流れの中、京丹後市でも人口ビジョンを立てて今後子どもが増えていくかもしれない。このようにいろいろなパターンがあると思うので、学びの施設として、今持っているものを生かしていくところから考えていかなければいけない。10年後、どうなるのか責任を持った答えをと言われると、責任を持ちたいと思うし、絶対これを維持していきたいと思うが、何が起こるか分からないということはある。頑張っただけで学びのシステムを築き、継続する中で、子どもたちが増えていけばクリアしていくし、さらに減るようであれば、改めて申し上げなければならない時が来るかもしれない。今はそこまで分からないのでご容赦いただきたい。

- ⑤ 中2、小4生の保護者である。フレックス学園構想の分校の募集人数はどう考えているか。清明高校は倍率がかなり高かったと思うが、そちらの方面からの需要があった倍率が高くなり、この地域の子たちが入れないということはあるのか。

- ◆ 今、分校については、間人分校と伊根分校と弥栄分校の3つがある。間人と伊根については、募集定員40人だが、定員に達していない状況である。清明高校については、京都市北区に新設校として作った。京都市は人口150万都市であり、山城地域が30~40万の規模がある。百数十万の人口に対し120名の募集定員として、不登校などで通いにくい生徒や、大きな集団になじみにくい生徒、4年の学びでゆっくりやりたい生徒などいろいろな動機を持った子どもたちがたくさん志願してくれた。これまで高校の全日制、いわゆる通う学校を諦めていた、通信制にしか行けない、と考えていた生徒がたくさん受けてくれた。そのことで倍率がかなり高くなったことは事実である。丹後について考えると、今お示ししているように、生徒数が1000人を切り、全日制の課程が海洋高校を入れて6校ある中でのフレックス学園構想なので、そんなに高倍率になることは想定しにくいと考えている。ただ、今まで通信制しか通えないと思っていた子が、ここだったら通えるかな、と志願してくることで、3分校に通っていた数より少し増えるのかもしれない。そうすると何十人かの募集定員の規模かと思っている。

- ⑥ 丹後に1校だけになる場合、通学しにくい伊根の方々が通われるとなると、公共交通では難しいかと思うが、スクールバスといったものは考えていないのか。

- ◆ バスは1つの手段として検討できると思う。それにしても遠いということがあって、現在の伊根分校には伊根町の子どもは2人だけで、実は宮津やこちらの方からわざわざ通っている状態があって、伊根に置いておくのがよいのかというところがある。ただ、大きな集団で中学校の時に一緒だった子どもと、一緒だと嫌だという子どもがあるため、別のところへ通うメリットが全くないわけではない。どちらにせよわざわざ遠くに通っている。ただ、今度は、伊根の子どもが弥栄分校に通えるかという点も厳しいということがある。特に、本庄や蒲入の地域になると無理だと思っている。今、高校では通級指導教室、特別支援学級の構想もないわけではない。文科省で議論しているが、インクルーシブ教育システムの研究の中で、宮津学舎、加悦谷学舎の中にそういうシステムを導入する方法も可能かもしれないので、いろいろな形でそうした学びの場を確保することを考えていくべきと思っている。

- ① 7月の公聴会に参加した際、「時間になった」として強制的に会を終了された。滅多にない機会なのに、せめて「時間になったが最後に何か意見はないか。」と言うべきである。何をしに来たのか、人の話を最後まで聞く気がないのか、と憤ったことをまず伝えておく。

少子化、生徒数の減少に関してだが、なぜ、公立高校が再編を考えて、私立は議論の場に来ないのか。同じ土俵で話し合いはできないだろうと理解はするが、私立に行かれるお子さんが皆公立に入ったら、ここまで在り方を見直さなくとも、1、2クラス分、公立高校で定員を増やせるのではないか。私立にも良さはあると思うが、公立校の方が単純に学費、距離の面で通わせやすい。現状、学力が足りないので私立を受けるように中学校で指導される話も聞くので、公立で定員割れするような形をとれば、目的を持って行く子以外は、私立にはいかないかもしれない。早い話が、言葉が乱暴で申し訳ないし、言い過ぎとは思いますが、私立が潰れば良いのではないのか。今年も公立は募集定員が減ったが私立は同じように募集しているのはどうかと思う。公立校が私立校の存続のためにしわ寄せを受けるような気が無きにしても非ずという印象を受ける。

- ◆ 公聴会の終わり方については申し訳ない。急いでいたわけではなく、参加された方々のご都合もあるため、設定時間の範囲で終わろうと思ったものである。

私立について、丹後地域に関連しては中丹地域や、宮津、それから兵庫県豊岡の方にあり、割合は概ね公立が8割、私立が2割ほどである。公立で100%の募集定員を設定しても良いのかもしれないが、全日制で100%の募集定員を設定しても、府立高校を選択してくれるかというところでもない状況がある。定時制、通信制、あるいは特別支援学校を選択される方もいる。私立に遠慮しているわけでもなく取り決めがあるわけでもない。大体従来からの互いのシェアを設定した上で、今後の予測を見て考えているところである。

- ② 子どもが中3生で、高校受検に向けて勉強し始めている。選抜制度についてだが、第1希望、第2希望があり、第1希望には、第1順位、第2順位がある。しかし第2希望に関してはその高校が定員割れをしてないと入れてもらえない。第2希望というのはあり得ない入試のシステムが現在組まれている。そんな理不尽なことをやっておきながら、今の説明は、少し違うのではないかと思う。

- ◆ 制度については今おっしゃったとおりだが、この地域について、今回募集定員として、子どもが182名減る中で141名の定員減という、一定定員減を抑えた形にさせていただいている。私学からすれば、もう少し公立の定員を減らしてほしいのだが、それは公立の役目ということも踏まえ、設定させていただいた。それから、前年度選抜の結果を見ても、定員割れをしている学校はこの地域にもある。実際、今年の入試は定員がいっぱいになるかというところ、全日制的進学率はこの丹後地域で93%であり、他府県、私学に行く生徒もいる。あり得ない制度を設定しているというご指摘であったが、この状況を見るとそうでもない。私どもは、この地域の状況を踏まえて定員設定と制度設計に努めさせていただいているのでご理解いただけたらと思う。

- ③ 私は中学校のPTA会長をしているが、率直に子どもの意見を代弁してもらいたいと思う。高校の定員はたくさんあることに越したことはないと思っている。本日は懇談会なので教えていただけたらありがたいが、資料に受入率79.4%という数字が示されているが、その設定の意図や指針があれば教えていただきたい。

- ◆ その件については7月の公聴会でも質問された方がおられた。この地域は、79.4%という受入であるけれども、他の地域からすれば、かなり高い。というのは、この地域だけでいえば、私学は暁星高校だけであるし、あと公立志向という状況がある。これはあくまでも実績である。設定というより、過去の実績を踏まえて、定員設定と子

どもの入学状況を見ると79.4%ということになる。近隣の中丹、口丹では6割近くまで下がるので、この丹後地域はかなり公立へ入学いただく子どもが多いという状況であり、子どもはそれを踏まえながら定員設定をさせていただいている。

- ④ 京都市内なら私立高校がたくさんあり、また環境の違いもあって単純な比較はできないという思いも持っているが、できれば、その79.4%というのを少し引き上げてほしい。教育的な効果と仰っていたので、現状の教育がどうかという評価も当然あると思う。高校には本当に素晴らしい教育をさせていただいていると思うので、極力それが低下しないようにするには、小規模校で縮小ということではなくて、この率を少し上げることができれば、近くの高校に通いたいという子が、遠くの私立高校に行かなくて済む場合も出てくると思うので、子どもたちの意見を代弁させていただくと、近くの高校に、大勢通えるようにしていただきたいと思う。

また、経済的に厳しいご家庭もたくさんある。そこでは、子どもが近くの高校に通うことで、例えばアルバイトができ、家計を助けることができる。それが、私立高校、遠い高校に行くと、その時間さえも確保できないこともある。せっかくこの地域で育ったので、高校も、普通に地元の高校に通わせたいと願う保護者の方が多い。冒頭で説明をいただいて、やはり数が減っていくのでやむを得ない部分もあるかとは思いますが、極力、小規模校になってもメリットを前面に出してもらえるような形で進めてくれればありがたいと思う。

やはり教育はマンパワーだと思う。例えば、ICTを活用して、スクリーンに出して教育ができる、と仰ったが、教育というのは対面だと思うし、予備校のサテライトではないので、やはり熱を感じながら教育を施していくことが現場の先生の思いだと思う。便利な世の中にはなっているが、ICT、サテライトができます、というのは、少し保護者としては違和感があるというのが感想である。

- ◆ ご意見としてしっかり持ち帰りたいと思う。小規模校のメリットはたくさんあると思う。生徒一人一人を見て、その子に応じた教育をするという面では、規模が小さいというのはメリットだと思う。ICTだが、学校教育に使っていく上では、まだ開発途上で不十分な部分はあると思う。ただ、これを少子化、小規模化が進む地域において、どう活用していくかというのは、大いに研究し、積極的に活用していくスタンスに立つことが大事だと思っている。

- ⑤ シート13について、教員定数が1学年3学級だと22人、2学級で15人と示されているが、これは文部科学省の配当の数だと思うが、例えば、お金をかけて、7人分の教員分を京都府が負担すれば、そのデメリットは解消できるというふうに思うが、そういう考えはないのか。

- ◆ 国は法令で教員定数を決めているが、あくまでも国の基準であり、京都府としても、いわゆる加配という基準を上回る教員配置をしている。京都式少人数教育ということで、小・中学校でも展開している。仰るように小規模の高校、地域において、その努力をしていくことは大前提としてあるので、頑張っていきたいと考えている。

- ⑥ 三つの道について、建前上まだ決まってないのでどれかにしましょうよという話をされているが、ほとんどの保護者は、学舎制になるんだろうと思っておられると思う。資料の割合も学舎制に対する説明がかなり多く、新聞でもその方向で検討されることが載っていたし学舎制になるのだろうと思っている。聞くが、今日、説明している府教委5名の方は、お住まいはどこか。

- ◆ 京都市、亀岡、南丹市である。

- ⑦ 地元の方はいないということだ。高校生の通学手段はご存じか。駅からどれくらい離れているかご存じか。学舎制ありきで話をするが、学舎制になると、校舎間をスクールバスで部活動の移動をする、授業に関しては学舎間を先生が移動する、という話

だが、久美浜高校と網野高校は、距離がどれくらい離れているかご存知だと思うが、移動にかかる時間のロス、子どもに1日に1時間～1時間半をバスの中で無駄に過ごせというのが、学舎制なのか。単純に、1校にしてもらえばそんなことにはならないと思う。私たちも通った学校ではあるので母校として残してほしいと思うが、人数が多い方が良いことが多いのも理解はする。そこは理解するが、1日1時間以上、バスの移動で時間を無駄にしろと言われていたようで、どうしても納得いかない。

先日、宮津高校の説明会に行ってきたが、授業が7時間で終わるのが午後4時半、5時くらいから部活が始まる。7時には一斉下校する。正味、部活動の時間が1時間少ししかない。そんな中、今度、網野や久美浜に通うと、約1時間、部活動もできずに移動のためだけに費やされ、それが3年間続くことになる。1時間あれば、もう少しましなことができるのではないかと親としては思う。そんな無駄な時間を過ごすのかというイメージがある。それと、スクールバスで校舎間は移動できる、現地解散も可能、最寄りの駅にもおろす、ということだが、私の家は、網野駅と甲山駅との間が最寄り駅だが、例えば、新しく網野と久美浜が学舎制になった学校に通う、網野校舎で学ぶ、網野駅まで電車で通う、網野駅からは通常自転車で高校まで行く、と想像すると、久美浜の校舎で部活動をするとしたら、最寄り駅でおろすとか現地解散と言われても、自転車は網野高校にあるのでなんとしても戻ってもらわないと困る。現実問題として、そんなことでも時間のロス、無駄がある。義務教育ではない高校は、ある程度サービス業だと思うので、可能なら月額1,000、2,000円払うのでスクールバスを各方面で運行していただきたい。儲かっていないバス会社はたくさんあり、運営に苦慮しているので、府や国から補助を出して、できれば校舎間だけでなく、各方面にバスを出し、ドア・トゥ・ドアという感じで完全な送迎するぐらいのことをしてもらわないと、学舎制という時間を無駄にする高校にわが子を通わせるのは保護者は二の足を踏むと思う。そうすると峰山高校に人気が一極集中するだろうということまで未来を想像してしまう。現実問題として、スクールバスをいろいろな地域に走らせてもらわないと、丹鉄の利用が減るのは申し訳ないと思うが、安心して子どもを無駄なく通わせる気がしないという意見である。

- ◆ バスについては、今後、教育内容と併せて前向きに検討していく予定である。今日は、初めてお越しの保護者もいらっしゃるので、少し、学舎制についてご説明をさせていただきたい。三つの道のうち、そのまま各校を維持して小規模化すると、かなり、高校生として困ったことが予想される。シート23～26辺りにまとめてあるが、我々は、高校生の多様な生き方、それに見合った教育内容を提供していきたいと考えている。A高校B高校で各校ごとに生徒数が減ると、教員も減っていく。すると、例えば理科であれば2名くらいしかその学校には配置できない。地歴公民科でもそういう現象が当然出てくる。その理科の教員の専門が地学、生物であれば、物理や化学についてはレベルの高い勉強をしたいという子どもたちに必要な学習、指導がしにくくなる。同様に、日本史、世界史、地理、あるいは公民科という分野があるが、教員が少なければその専門性が活かしきれない、そんな状況が生じてくる。それを、例えばシート23のように、〇〇高校という形で一つの高校にすれば、先ほど教員の移動に時間がかかるご意見もあったが、移動によってA学舎の化学を専門の教員が教えられる。あるいは、B学舎でも地理の専門の教員が教えることができる。そのように、できる限り生徒と教員が多かった時代のサービスをキープしたいと考えている。高等学校だと卒業後そのまま社会へ出て行く子どももいるし、大学や専門学校それぞれの進路に分かれるので、それをカバーしたい、これが学びの部分である。

それから、分掌業務でも、例えば大規模の学校で4、5人の進路指導の教員がいたとして、学校規模が減って2、3人になったとしても、就職開拓のために事業所訪問をする教員、大学、専門学校を担当をする教員は当然必要である。それを2人、あるいは3人でしなければならなくなる。しかし1つの学校にすれば、それは2+3で5人とか3+3で6人と分担でき、子どもたちのために多様なサポートができることになる。なので高校が小規模化すると、学びの部分、あるいは教員が子どもたちをサポートする部分でデメリットが大きいことが予想されるので、それをなんとか回避したいという思いがある。

シート26の部活動についてだが、A高校、B高校で、例えば野球部とかサッカー一部の部員が8人しか集まらなかったら、この部活は公式戦に出られない。しかし、〇〇高校という大きなくりにすれば、これは各学舎は同じ学校の子どものため、足せば16人になり公式戦に出ることができる。ただ、先ほどご指摘のとおり、日々の練習をどうするんだというとなかなか厳しい状況がある。毎日それぞれの学舎でパート練習、これが主な練習になると思う。そして、土、日曜日、祝日で全員が集まった練習をし、公式戦に出るというイメージを持っていたら良いのではないか。

⑧ なぜ1つにしないのか。

◆ 1つにしないと言うか、今回、高校が小規模化していく中、統合との間をとった学舎制の説明をまず説明し、理解いただいた上で、本日いろいろなご意見をいただいて帰るつもりである。意見として出していただいたら良いと思う。ただ、やはり丹後の地域性を考えた時に、1校にしてしまうと通学でかなり遠方から通われるという方が想定され、厳しいと考える。もう1つは、各地域で今までに積み上げてこられた学校の学びについて、勉強だけでなく特別活動、ボランティア、地域への参加、様々な部分で地域と根強く結びついて教育活動をされてきたので、その財産を活かしたいということをお我々は考えている。部活動では合同チームというものがある。これは部員が少ないチーム同士と一緒に出るというものだが、これは、その都度しか合同では出場できない。相手方がどこにもなければ試合には出られない。例えば、京都府の南部地域の学校で手が挙がっても、実際に一緒に活動するのは難しいことにもなる。しかし、学舎制の場合は同じ学校なのでパートナーが決まっている。学舎で休日の公式戦、練習試合を一緒にやっていくイメージで丹後地域のスポーツを守っていきたいと考えている。

⑨ 1つの高校として網野・久美浜高校が一緒になるなら、通学距離を考えて、言葉は乱暴だが、久美浜高校を潰して網野高校にしたらいのではないか。校舎間を移動する無駄な時間を過ごさないし、教員定数は網野に久美浜の定数を足せば良い。教師も同じ数を配置できるのではないか。それとも移動のことを考えて余分に教員を雇いたいからそういうことを考えるのか。移動で時間がかかるから教職員を確保して増やすためにそういう道を選ぶのか。そもそも、子どもが少ないなら、子どもが中2生の時に中学校が統合されたが、そのときも学舎制にすれば良かったのではないか。部活動の人数が少ないから一緒になれ、と言われたが、それなら合同チームを作ってやれば良かった。京丹后市立と京都府立で枠組みが違ってもいいかもしれないが、この京丹後では小、中学校が統合されてそういう思いをしてきた生徒・保護者がたくさんいる。なぜ中学校の時にそういう案が出ずに高校でこういう話をするのか。おかしい。あなたたちは同じ府教委の人である。市と府で線を引き考えては困る。移動時間のロスがあるなら高校を一つにまとめた方が賢明である。やれること、学ぶことがたくさんあるなら、校舎を別にして見たこともない同級生と、体育祭や部活等で一緒にやってどこまで友情が深まるのか。される結果に文句は言わないが、私はそう思う。

◆ 学舎制を推進しようと説明しているが、与謝・丹後地域では2校あれば学校数としては収まり、小規模化のデメリットはかなり克服できる。仰るとおりである。ただ、それぞれの学校が築いてきたもの、そして通学距離を考えると、久美浜から網野や峰山高校に通学している生徒もいるが、近くの久美浜高校を選択する生徒もいる。久美浜に学ぶ場がないのはそんな生徒にとって厳しいことになる。学舎制は小規模化のデメリットをなるべく少なくしていくことである。20km離れているから部活動で毎日移動するのは現実的には厳しい。バスを利用するのは条件を緩和するために最低限必要なものであるが、全てクリアできることではない。教職員も両校に通うのは厳しい。現時点では、久美浜高校での教育の場、農業教育をキープしていきたい。子どもにとって、網野や久美浜、峰山へ行きたいなど自由に選択できる。久美浜は現在総合学科があり、今後教育内容を検討していくが、そのような学びをしたい生徒のための学校であり、普通科で学びたい生徒は網野・峰山を選択できるので、その上で授業や部活

動等でデメリットがないようにしようとするのが学舎制の考え方である。

⑩ ジョブサポートティーチャーなどもあるので、学舎制にしなくても、A・B高校のままでも教員の移動は可能ではないか。

◆ 制度的には可能で、一人の教員がA校B校の掛け持ちはできる。ただ、部活動や進路・学年指導等、学校の組織的な対応において、多様なことができる可能性を追求する中で学舎制を提案しているものである。

⑪ 進路指導の話をされたが、小さい学校では2人でやっているところもあるので、生徒が減れば教員2人でも充分できる。逆に他校舎の知らない生徒の進路指導が負担になるのではないか。

◆ 「充分」という線をどこで引くかによるが、規模の小さい学校と、大規模だった学校が減ってきた学校とでは状況が違う。小規模校ではそこでのやり方があったが、それなりの規模があった学校は、生徒数が減っても従来と同様に子どもの多様な進路希望に対応していく必要がある。その指導面・教育的なサービスをキープするには、今まで教員が担当して対応してきた規模の体制が必要であり、教員が減ると一人一人に負担がかかると考えている。

⑫ 学舎制はこの地域で何年持つと考えられているのか。

◆ シート38に示しているが、平成32年度に改編を考えており、今の中学2年が進路選択するときには一定の方向性を出したい。そのため中学2年が高校3年生の時に改編となる。生徒数が減少する中で高校を1つにする意見があったが、一定この形態で教育内容を充実していく。シート34に示すように、この地域では久美浜と網野高校の組み合わせの中で、網野高校は普通科の充実を図り、久美浜高校であれば総合学科の内容を踏まえ充実を図る。1つの校舎で多くの学びの設定は厳しいので、2つの学舎をおく中で、選択のバリエーションを増やす考えであり、数だけで論議せず、地域の中で多様な学びを用意するのが学舎制の考えである。

◆ 久美浜高校は危機的な状態である。久美浜地域から網野・峰山高校を選び、逆に久美浜高校は網野地域から選ばれている。久美浜高校は普通科教育から農業教育まで伝統ある教育を進めており、府としても振興するよう努力してきた。久美浜高校での教育はまだ続けたいと考えており、地元の思いも強い。学舎制をとりながら、網野高校との連携の中で久美浜高校の教育を継続する。ただ、5、10年経つ中でどうなるかは非常に厳しいものがある。今決断すべきかもしれないが、丹後の教育全体の流れでチャレンジできることもあり、網野とグループ化することで久美浜の教育を続けていきたい。

⑬ 在校生の扱いはどうなるのか。中学2年が進学して高校3年次に自分達が選んだ形ではない高校ができる。例えば網野高校に進学した生徒は網野高校で卒業するのか、新しい学校で卒業するのか。

◆ 入学した高校で卒業する。網野高校に入学すれば網野高校で卒業する。仮に学舎制になったときは、2年間は一つの学校に網野高校と網野学舎が併存する形になる。

⑭ 部活動はどうなるのか。

◆ 網野高校単独で出来る部分もあるし、新しい学校と合同で実施することも可能。学校活動に属している上では網野高校としてチームを組むことも可能で、3年生のみになるケースもあるので、実態としては合同で実施することになるのではないか。

- ⑮ 学校のPTA代表として出席させてもらっているが、大勢の保護者を代弁する形で言うので聞いてほしい。高校というのは、安心してそこに暮らすというシンボリックな部分がある。高校が5、10年先になくなるかわからないと言われたが、学舎制になったとしても、これから先どうなるかわからない不安を抱えたまま、網野に暮らそう、久美浜に暮らそうとはなかなか決断できない。そうすると定住もせず、どんどん離れていくことになるので、単純に高校の経営が厳しいからとか、教員確保が難しいからということではなくて、町づくり全体の中でどうするのか、トータルで考えてほしい。例えば、舞鶴では病院が4つあってお客さんの奪い合いがあり、その中で議論が起きたということがある。子どもが減る中でも、高校がたくさんあることを望む保護者の意見もあるし、極力、受入率の79.4%を引き上げていただき、安心して保護者の方が子どもを学校に通わせ暮らしていける環境を整えていただきたい。

久美浜高校、網野高校のどちらが学舎の本校になるのかは触れられていない。敢えて触れておられないのかと思うが、その議論が出てきた時に、住民感情がわっと出てくると思う。懇談会も、京丹後市で網野町、大宮町は行われたが久美浜町ではない。久美浜でも是非こういった機会を設けていただいた方が良くと思う。どちらが本校かということをはっきりと示していただけないことには、保護者としてもなんとも意見が言えない。極力、今の高校を残していただきたいというのが保護者の総じての意見としてある。小さい規模になったとしても、小さいなりの教育というのは施せると思うので、デメリットを補うくらいのメリットを見いだしていけばカバーできると思う。また、なかなか理解できないのは、学舎制による先生、生徒の移動の負担とコストの問題である。府民の税金を使っているが、移動するバスを買わないといけないことや、例えば、網野高校である先生が1日4、5時間授業できていたのが学舎を移動することで2、3時間しか授業ができなくなった時、減った分を補うため1人先生を雇うことになり、逆にコストがかかるのではと疑問も出てくる。一度、いろいろなことも含めて検討いただきたいと思う。

私は旧網野小学校出身であるが、4年生のときに網野南小と網野北小とに分かれた。やはり大勢の方が楽しかった思い出も多いし、大規模なほど教育効果がいろいろあるのかと感じている。どうか、長期的な視点で考えていただいて、今、その場しのぎではなくて、将来的にこうなるからこうするんだ、というように本音で話しかけてもらわないとこちらもストンと落ちてこないで、ぜひそういう検討をお願いしたい。

- ◆ いろいろな点について考えさせられるご意見をいただいた。5年、10年先のことについて申し訳ない発言をしたが、なんとしてもそれで地域の教育、学び舎を維持していきたいという思いで取り組んでいる。コスト面や教員、生徒の負担について、いろいろとご意見をいただいた。聞かせいただいたことをしっかりと受け止めて考えていきたいと思う。

- ⑯ 中学2年生の子どもがいる。移行に関する実施時期が載っているが、在り方について関係する全ての保護者にどのパターンが良いか一斉にアンケートをとってはどうかと思う。学舎制を導入したいとのことだが、三つの道があると言いながら、それぞれのメリットデメリットの説明がなく、学舎制のメリットばかりで、親の考えとかけ離れているような気がする。あと、私も今のまま高校を残すのが1番であるが、さきほども意見があったように、小規模校のデメリットはあると思うがメリットもあると思う。メリットを増やしていけるような視点に立って考えてもらわないと、小規模のメリットは全然出てこないと思う。また、進路指導のことだが、先生が2、3人になるから進路指導が十分できなくなるとのことだが、生徒もその分減る。学舎制にして4、5人で担当するにしても、それだけ生徒は増えるしA学舎、B学舎と離れた中で、どれだけきちんと進路指導ができるか疑問である。部活動も、実際部活動に入りたくても移動が大変だから入れない人も出ると思う。一緒に一つのクラブとして活動すればよいというが、実際子どもたちには負担になると思う。1番は今のまま高校を残してほしい。いくら意見を言ってもすでに方向が決まっているのであれば、何のための懇談会なのかということになるので、ぜひ保護者にアンケートをしてほしい。

- ⑰ 学舎制になった場合に、現中学1、2年生の高校在学中に再編ということになるが、さきほどの話では網野高校と久美浜高校の2校が一緒になるということであったが、仮に、網野高校の在学から、学舎制になった時の新学科など充実した教育内容があった時に、新しい内容を学びたいと希望が出た場合、対応はどう考えているのか。
- ◆ アンケートであるが、全ての保護者の方に懇談会に出席いただくのは難しいことは承知しているので、対象となられるこの地域の小・中学校の保護者の方に対して実施させていただき、すでに学校を通じて回答いただいているものと考えている。
- ⑱ 3つのパターンがあってどれが良いかも聞いているのか。
- ◆ 聞いている。説明資料も付けさせていただきながら回答いただけるようにしている。十分それを踏まえさせていただく。
- ⑲ 結果も知らせていただけるのか。
- ◆ 当然、公表はさせていただく。学舎制での学びだが、基本的には入学時にその学科での3年間の教育課程が決まる。本筋の教育内容として学舎制移行後の内容を学べるかということそれはなかなか難しい。ただし、必要単位以外でプラスで学ぶことについては、今後、在り方を考える上で子どもの教育内容も検討していくものと考えている。
- ◆ 進路指導に関して説明が不十分だったかもしれないので補足する。子どもが減ることで人数に対しての業務はもちろん減る。しかし、例えば就職する子どもがそれなりの学校規模の時は20人いたのが1人だけになったとして、だから仕事が1/20になるかということそうではなく、希望者がいればその就職に関する基本的なサービスをきちんとしなくてはいけないことになる。そして、大学を目指している場合もそのフォローをしないと行けない。その業務の「種類」がたくさんあるということを申し上げたかった。子どもの数が減れば、業務の種類が減るものではない。たまたまその年度に就職を目指す子どもは0人かもしれない。しかし、業務の種類は一定あり、それは毎年教員が担当しているので、教員の人数が減ればその業務を兼ねていかねばならない。進路指導を例にとって申したが、他の業務でも同様である。教務でもいろいろな業務があるが、それを兼任することになる。
- ◆ 網野で学んでいる子が久美浜で学ぶことがあるかどうかであるが、両校の学科、教育内容は違うものになると思う。1つの学校としての学びの中で、ある学習は交流という形で別学舎で学ぶことは望ましいと思う。ただし、移動に1時間かかるため、必修とすると大変負担になるため、例えば、農業の体験的な学習をすとか、一緒に活動を選択できるようにすることは大いに進めていくべきだと思う。
- ⑳ 分校と学舎制の違いを一言でいうと何か。
- ◆ この地域の例をとって説明するのが一番わかりやすいと思う。この地域では間人分校、弥栄分校があるが、間人分校でいうと、網野高校本校は全日制、分校は定時制、学びの形態が本校は3年間、分校は4年間と異なる。峰山高校弥栄分校は、一定離れた中で置かれている学科が違う。基本的に、それぞれ連携するというより、学びが独立しているので、そこが本校・分校との違いになる。学舎制については先ほどから説明しているが、いろいろな観点で連携した中で進めていく。授業の進度を合わせる必要があるし、教育課程も一定それぞれ揃える必要があると考えられる。いろいろと指摘もいただいているが、教員も連携する、生徒も移動するというので、そのような形で学舎制を進めることとしている。分校はセパレートした形で進める形になる。
- ㉑ 本校の教員が間人分校に行って授業しているケースはないということか。

◆ ない。

⑳ 皆さんの意見を聞いていると、学舎制に賛成だという意見が全然出てきていないが、その点はどう考えているのか。

◆ 今日のご意見は、まさに保護者の思いをいただいております、学舎制に賛成でないというご意見もあったが、学舎制にするならばこうしてほしい、というご意見もいただいたところである。そうしたご意見も踏まえながら、行政として判断していきたいと思う。ただし、小学校の例を挙げて、ある程度多いほど活気があって学びが充実するというご意見もいただいているので、中には1つの学校にした方がよいというご意見もある、という理解をさせていただいた。

◆ 学校の課程や設置規則については府議会で決断いただくことになっており、その他教育委員会の会議で決めるなどいろいろとある。私どもは皆さんの率直なご意見を賜ったので、持って帰って今後の検討につなげていきたいのでご理解いただきたい。

㉑ 先ほどアンケートはすでに実施したと言われたが、学舎制は紙を見ただけではよくわからないと思う。わからないに「○」をされている場合が多いと思うが、学舎制とはどういうことか、もっと保護者がよくわかった上でどう思うか意見を聞いて欲しいと思う。わからないままでアンケートをとり、意見はこうでした、ということではなく、説明をきちんとしてわかってもらった上で意見を聞くことが必要だと思う。

◆ ご意見はごもっともである。わたしども昨年度以来、検討会議、地域での懇話会、公聴会、そして今日の懇談会を行い、併せてアンケートもやっているところ。今後、パブリックコメントで府民から意見をいただくことも考えている。また、議会での議論などいろいろとある。十分にご理解をいただけていないのではないかとということも踏まえ、検討していこうと思っているのでよろしく願います。

㉒ 子どもは学舎制になることは知っているのか。親だけが知っているのか。学校でその話をしているのか。

◆ 高等学校のことは、中学3年生になると進路指導の中で話をしていく。今の議論が子どもたちに伝わっているかということ、そうはなっていないと思う。

㉓ 1、2年生には話はされないというのか。子どもが聞いたらすごくストレスだと思う。学舎にはなりたくないが、網野高校には行きたいとなったらどうするのか。

◆ 学舎制によって地域の学校を存続させることを前提に考えている。今ある学校がなくならないようにしたいということに基づいてご提案しているので、そうした形で進める中、子どもたちに影響がなるべくないような形をとりたいと思う。

㉔ 中学生にも説明してほしい。

② 先ほどシート23について、理科の先生と社会の先生の話があったのだが、今どうなっているか教えてほしいのだが、宮津、峰山、加悦谷、網野、総合学科の久美浜も含め、理科と社会の先生がそれぞれ何人いて、何の専門なのかを教えてほしい。

◆ 申し訳ないが、今手元にその詳細の資料がない。

③ 小学校6年生の保護者である。ちょうどうちの子が入るときに再編ということになるのかと聞かせてもらった。振り返って、私が高校生の頃に比べると、今の丹後地域の高校は、いろいろな面で素晴らしくなっていると思う。学力の面もそうだし、クラブ活動でも、また地域活動でもいろいろと新聞に載ったりしている。学校力というか、そういう力が高まっている中で、今後子どもが減っていくにあたり、その学校力を維持していこうということであれば、今回の動きというのは仕方がないと言うか、維持していく上で、統合なり、学舎制なりをとるのは仕方がない。引き続き、学校力を維持していく上で取組を進めてもらいたいと思う。

学舎制を選択されるということだが、地域論などいろいろある中で、そういう選択をされたのだと思うが、要望として、先ほどのスクールバスの件だが、資料でいうとシート32の運行例を見て気がついたことだが、スクールバスで行ったり来たりすることになるが、最後、現地解散をする場合もあるだろうし、学校に戻ってから帰ることもあるだろうということかと思っている。丹後地域の学校は、遠隔地から通う生徒が多いので、鉄道を使ったり、バスを使ったりして通学していると思うが、定期券を買う。定期券はこの駅からこの駅までの往復となっているので、例えば、加悦から宮津に来ているが、帰りは使わないといった普通の形ではない通学定期を、これは鉄道会社やバス会社のことになるのだと思うが、そういう調整や提案をしてもらってはどうか。いつも使わなくなる可能性もあるので、そういうことも検討してもらえればと思う。これは要望である。

◆ シート32のバスの運行は一例であり、実際に進めるとなるとバスの運行の仕方は、部活動の人数や種目などによって研究する必要があると思っている。ご要望の件もその時に合わせて、貴重なご意見なので、検討の中に含めていくべきかと思う。

④ たくさん細かいところまで説明していただいて、でもやはりわからないこともあり、正直なところイメージがなかなかできない。A学舎・B学舎ということは、宮津高校A学舎、B学舎ということになるのか。そうすると、シート23をイメージすると、教科によって生徒があつきこっちに行くということなのか。

◆ 基本的にはシート23で教科に矢印があるのは、教員である。教員が動くということで、子どもたちが時間毎に動くということは距離があるので想定していない。ただ、春休み、夏休み、冬休みの長期休業中に、進学補習、あるいは就職指導の講座などもしているが、そういう場合はどちらかの学舎に固まってもらうとか、みんなと同じように勉強する、講座を受けるということはあると思うが、基本的には教員が動くということである。

⑤ 例えば、加悦から通学している子がA学舎にずっと通うことになれば、先生が動いてこちらに来られる。基本は同じ学舎で勉強するということだと理解した。

資料にもあったのだが、ICTなどもどんどん入れていくのかと思うのだが、うちの子どもは中学2年生と小学校4年生なので関わってくると思うのだが、中学2年生であれば平成30年度に高校に入るのだが、高校3年生の時にはその制度が入ってきているのだが高校3年生の子は変わらないということか。

◆ 基本的に、高校に入学する際に3年間の教育課程をお示しする。うちの学校ではこういう教育課程でこういう指導をしていきますよと。それに応じて希望してもらうことになるので、その教育課程は動かない。したがって、入学した年毎に順次ということになる。

また、先ほどICTの話が出ていたが、実際に教員と子どもが面と向かって話をしながらということが一番望ましいのだが、ICTも日進月歩と言うか、すごく発達もしてきているので、そうしたことも取り入れながら、効果的な学びの方法を研究して、京都の学舎制が良いものになるようにしていきたいと思う。マイナス面が多いので、それを最低限くいとめるというだけではなくて、できればこの中から良いものをつくりだして、丹後地域の子どもたちにそうした教育を受けてもらいたいと思っている。

⑥ とにかくこの学校に行きたいという気持ちで入学した子どもの負担が大きくなりないうように。いろいろな教育を受けさせてもらうことはありがたいことだし、良いと思うが、いろいろと変わっていくことが子どもの中の不安にならないように考えてほしい。

⑦ 保護者としては、子どもが進路をどうしていくかという中で、よほどあの高校に行きたいという思いがあれば希望に叶うように思う反面、家庭の経済的なこともあったりして、できれば公立の近くの学校で、という思いも持っていたりするのだが、一つわからないのは、府立高校の定員の基準というか、先ほどの説明でも子どもの数が減れば定員も減っていくという話があったが、私立高校もある中で、どういう基準で決められるのかということと、学舎制になった後、丹後圏域になるのか、学校の定員の基準が変わることになるのかということをお教えしてほしい。

もう1点。細かい話だが、学舎制で2つの学舎をもつ高校ができるようになった場合の希望のしかたは〇〇高校のA学舎に行きたいと希望を出し、第2希望はB学舎ということになるのか。

◆ 1点目の募集定員の策定の考え方だが、今年の中3生が受検する際の募集定員については、与謝と丹後地域の中3生が全体で昨年に比べて182名減っており、1000人を割っていると先ほども説明したが、募集定員としては全体で141人落としている。考え方としては、この地域は93%の全日制高校への進学率であること。また一定私学にも進学する。この地域であれば暁星高校であったり、他府県であったり、中丹もあるが、募集定員については、中3生数と生徒の希望状況も聞いているので、そうしたことや、公立と私学で教育を支えるという話し合いもしながら進めてきている。今年では全体で141名減で、特に、与謝地域では、宮津で48人、加悦谷で59人と生徒数が大きく減少しているが、学校の教育活動を維持、子どもが少ない中でも学級数を維持しながら活動をしていただく。再編の議論の途中であり、過渡期であろうと思うが、宮津高校は20人の減、加悦谷高校は30人の減ということで、基本的には募集定員は1学級40人が基本であり、それに基づいて国の教職員定数の算定もそうなっているが、こうした生徒数の減少や生徒の希望も踏まえて、宮津高校は20人減、加悦谷高校は30人減と40人単位ではない形で減少したところである。

今後の学舎制の募集定員の考え方だが、基本的に内容にもよると思うが、それぞれ学舎制の組合せと、宮津・加悦谷ではこういう教育をする。網野・久美浜ではこういう教育を考えているとシート34でもお示ししているが、そうした学校の在り方とリンクしながら、募集定員も策定していくことになる。

かなり生徒数の減少幅が大きいので、減少幅からすれば、シート15のとおり、この地域全体で捉えれば、5～6学級規模の高校が2校あれば対応可であるが、あくまでも量的な部分だけでなく、質的な部分という観点でシート34にお示ししているように、それぞれの学舎を継続する形で、教育内容については、宮津であれば普通科教育や建築科もあるので、職業学科の学びをどうするのかという観点であったり、加悦谷高校であれば普通科教育であるが、その中で、例えば、国際、福祉、看護といった地域の状況や子どものニーズにあった学びを検討していく。同じ与謝地域でも、同じ学びを地域に置くのではなく、子どもが地域の中で、多様な学びの中で選択をするということで、こうした学びを検討していきたいと考えている。募集定員についてはかなり小規模になるとは思っている。

最後の質問であるが、今の制度でも宮津高校を例にとると、普通科と建築科があり、宮津高校の普通科を第1希望にして建築科を第2希望にする。宮津高校の普通科を第

1 希望にして峰山高校の産業工学科を第2希望にする、ということが出来る制度になっているので、そういう形を踏襲するのであれば、宮津・与謝地域の宮津学舎を第1希望にして加悦谷学舎を第2希望にする。また、その逆もあると思うし、宮津・与謝地域の学舎を第1希望にして京丹後地域の学舎を第2希望にするという入試を行うことになると考えている。

- ◆ 補足すると、シート10を見てもらいたいのだが、シート9は子どもの数の見通しで、10はそれを募集定員においたものである。上から2行目に79.4%とある。この中3生の数に79.4%、概ね8割を乗じた数が全体として設定する募集定員の見通しである。それを各学校に、地域の子どもの数で割り振ったものが下の数字である。学舎になってもおおよそこの数字で推移させることになる。学舎になってもならなくてもこの数字は動かない。基本的にはこのままである。もちろん毎年定めるので、若干は動くが、おおよそこの数字で推移するというイメージである。

また、高校の募集定員を100%にしてほしいというご意見もよくあるが、高等学校においては高校入試を機能させたいと思っている。そうしないと中学校で子どもたちが勉強しなくなってしまうといけないということもあるし、実際100%にしても来ない。全日制で100%にしても、定時制で学びたい子もあれば、通信制で学びたい子もいるし、特別支援学校に行くニーズのある子もいるので、100%は考えていない。

- ⑧ 素朴な疑問だが、このまま教育委員会の提案している内容で進んでいったとして、分校は弥栄分校の校地ということだが、平成32年度には弥栄分校の校地にはまだ全日制の2年生、3年生が残っていて全日制の授業をしている。高校1年生は単位制で入ってくるとどうなるのか、ということが非常に不安である。学舎制はどちらも全日制で、学校名が変わるぐらいでカリキュラムはそれほど大きくは変わらないと思うが、分校の場合は大きく変わる気がする。その点はどう考えているのか。

- ◆ 分校の統合については、子どもたちの数から言えば、合わせても数十人程度だろうと予想している。その中で分かれていてできていなかった部分。子どもたちがある程度まとまることによって、そのニーズに伝えていけるように考えていきたい。いわゆる課程だが、基本的には弥栄分校が全日制で農業・家政で培ってきた部分については一定我々も評価しているが、定時制にしてシート20には京都フレックス学園構想として自由な形で柔軟に高校を考えていこうという構想である。京都市には清明高校もあるが、そうした観点で考えながら、今後検討していきたいと考えている。

- ◆ 全定一緒になったときの運営のことだと思うが、例えば、始業時間については定時制なので少し遅らせるということもパターンとしてはあるかもしれない。また、1コマの授業時間は同じとしても、始業時間が全日制と定時制で違うということもあるかもしれない。学校運営の詳細については、峰山高校と十分に相談して混乱の起こらないように進めていきたいと考えている。

- ⑨ 部活動はどうなるのか。定時制は定時制の大会に出ることになるのか。

- ◆ 基本的には定時制には定時制の大会があるのでそのようになるが、それぞれのクラブの人員にもよると思う。

- ◆ 顧問が指導をすることについては、同じ学校で時間の都合が合えば、より専門性の高い顧問がいれば、どちらの生徒も指導してもらえば良いと思うが、引率業務などについては基本的にそれぞれで行ってもらうことになると思う。高等学校には附属中学校があるところもあるが、指導面では兼務して、より専門性の高い者が、吹奏楽でもスポーツでもそうだが指導している。柔軟に対応しているところである。

- ⑩ 上手に言えないのだが、宮津に住んでおり、地元の学校に行けたらいいなと思っているのだが、前提として今の通学圏がどうなっているかもわからない。丹後地域の宮

津以北の話になっているので、例えば、福知山高校附属中学校にはこのあたりの子どもたちも行けるようになっているし、もう少し幅を拡げて、宮津からなら福知山や舞鶴に行けるので、そういう広域の通学圏という考えはないのか。

- ◆ 京都府の高校の通学区域の制度は、まず専門学科については府下一円という学科が多い。大江高校には商業系の学科もあるが、宮津からでも通えるようになっている。福知山にある工業高校にも行けるようにしている。久美浜の総合学科は府内どこからでも通えるし、宮津の建築科も広い範囲から通える。普通科については通学圏の中で選んでいただくが、通学圏を超えては、前期選抜では一定の割合まで志願することができる。複雑な感じはするが、丹念に見るといろいろな学校に行けるということがわかりいただけだと思う。